



邵林泉名勝圖會

三

E
163
4

逍遙文庫
文庫6
1875
4



地
8
4

都林泉名勝圖會卷之二

目錄

清水寺

羅敷石 朝野碇

延命院

振袖石 水梯

歌中山

要石

蓮華王院

十鳥井

善源院

什室

月輪

虫干圖

萬壽寺

虎園禪師趾

正徹墓

同西門圖

田村丸田橋

田村丸田橋

香月名所

香喜院

若松池

燕子花遊宴圖

智積院

東福寺

三聖寺

靈源院

正統院

北殿自古添

通天橋

觀紅楓圖

成就院

傷屋谷

宝生院

鳥帽子岩

浮瀨

靈山國河堂

阿弥陀峰

南殿院

法住寺殿古蹟

聊塚觀和蘭人

什寶

島燈爐

海藏院

栗棘菴

即宗院

都林泉名勝圖會卷之三目錄終

自然居士墓
同記
南明院
兆殿司墓
清少納言古墳
墨深里 有馬橋
豐太陶爾跡

靈雲院
正覺院
俊成卿墓
南昌院
舍人親王陵
梅溪 桃山杉若光寺
龍德巷

遺愛石
莊嚴院
同女墓
清原深善父趾
稻荷初年圖
伏見山
慶雲庵

清水寺
西門



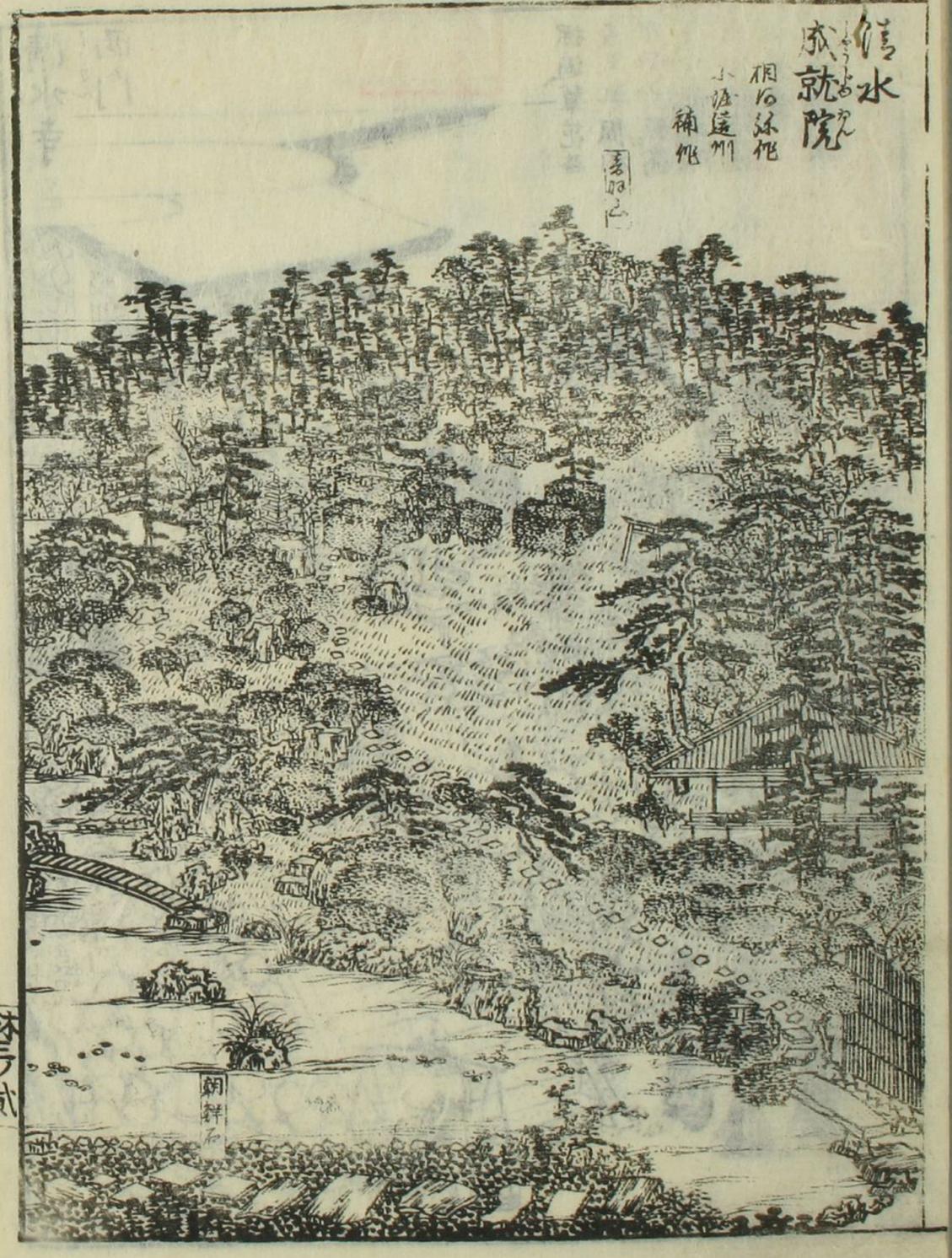
探遍葦花路
幾叉紅楓相
映醉中斜高
臺寺裡逢疎
雨清水山前
看落霞
橘洲烟樓



信水成就院

相石鉢池
小海庭川
補也

嘉祥



松之貳

其一

祇樹籬低思竹
回院庭幽豁俯
溪隈誰知雲嶂
藤蘿翠還映
皇城霞綺開
百之肇



成務院

其二



成務院

旋園何必布黃金，
泉石希同長者心。
披對于今知出世，
一庭樹可足祇林。

新羅河





若羽山清水寺へ洛東の佳境へ 倭城天皇の宸筆東寶記に國家

鎮護の爲官府に賜了印一面とあり長財とを乞ふとあり額ら

侍従之納言行成の筆と著聞み足るる縁起に歷代編年集成に著し

坪川院より小川寺へ一七目宿したる筆元亨秋書あり大檀那

坂上之宿福田村齋鈴麻山の鬼神退治の事當山の縁起み足るる外の

實録聞え次第思七き清系法王馬盛の靈驗に平家お沿の長門本小詳さる

地主の標ひひりしるる名多く古縁多し若好遊に四時増減かく清例ふ

て所謂五名水の其一と拾芥抄あり清水寺五十景あり

古崖懸泉 春巖開花 音羽疊翠 靈鷲疎鐘 冷陽萬戸

鴨河一帯 東郊烟雨 西門遠眺 宕嶺晴雪 龜阜暮靄

新撰朗詠 清水寺上方迎春 正通

自然齊發夕集 妙心あり 花はたらく 深山うか 宗鑑

默雲稿 第五橋東山路斜 飛泉吹雪梵王家 太平有象遊人喜 清水寺 天隱

提冲範言抄卷云

林三五

杖あるそりきき水にこりりく竹し風竹あらしらうみふた多
まの系けろくと能のりくはまふつれをきたとみちか つゆひ
のみふふ戸わくちるしとさたる瓜

はく身つとまふたそのとつたその風吹れの本葉はるる

法成入道梅政清水寺より竹のたけをいふ

漱の香もいづらんがふおあをいなる涙もそ有るか 名山院

けりうし礼とくくはらうか清水寺の漱乃志と系 長瀬

とつとするかたのふれをれつての門をい清水乃際 後鳥

境内成就院の林泉の名をりて相阿弥の化後小坂遠州修補あり

所之振袖の手水鉢籬者石鳥帽子石の頂摩浦より去る手接次

飛石五つの名石か加藤清正朝鮮より取帰るる小斎附次湯

を漢の秀吉公もか遊びのし浴室と連られ古跡之今五中への形

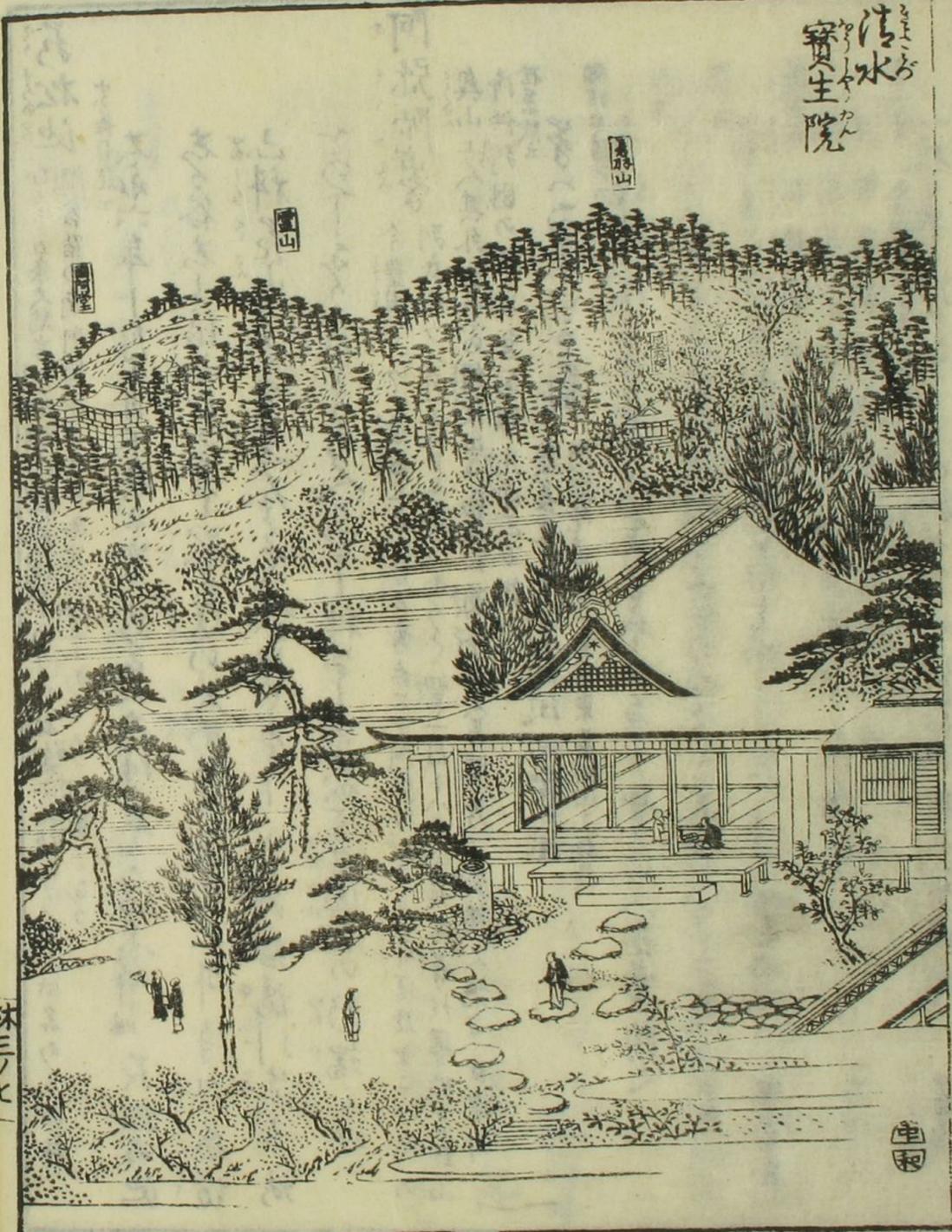
遺より護摩堂へ東福門院の清系附よりを造る洛東の妙境は

遠近も系を連ひつり又同境宝生院の客殿へ往者

幽地客尋
 稀芳花空
 掩扉春風
 吹去處暮
 作白雲飛
 梅華仙

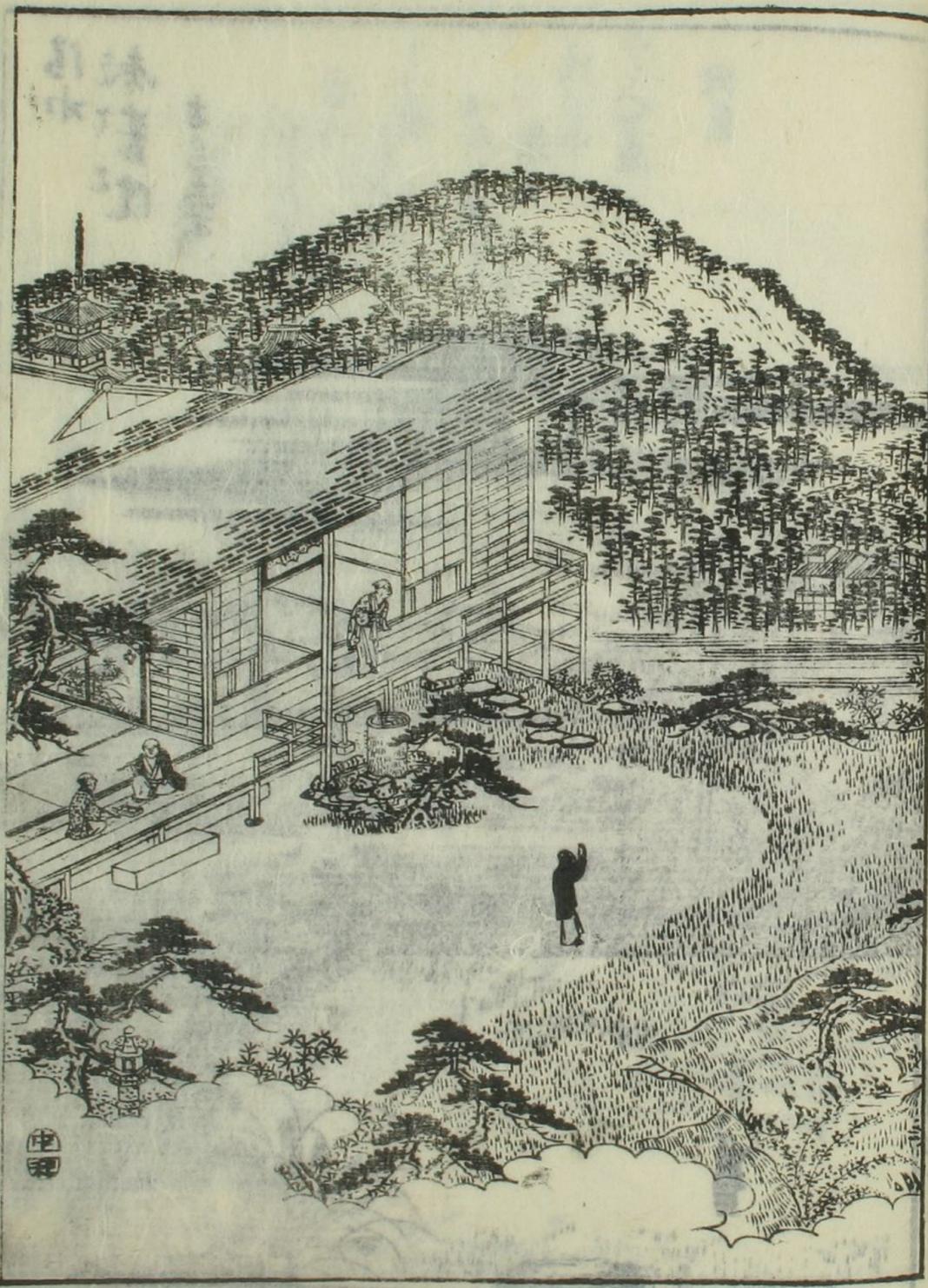


清水
 寶生院



林三七

印

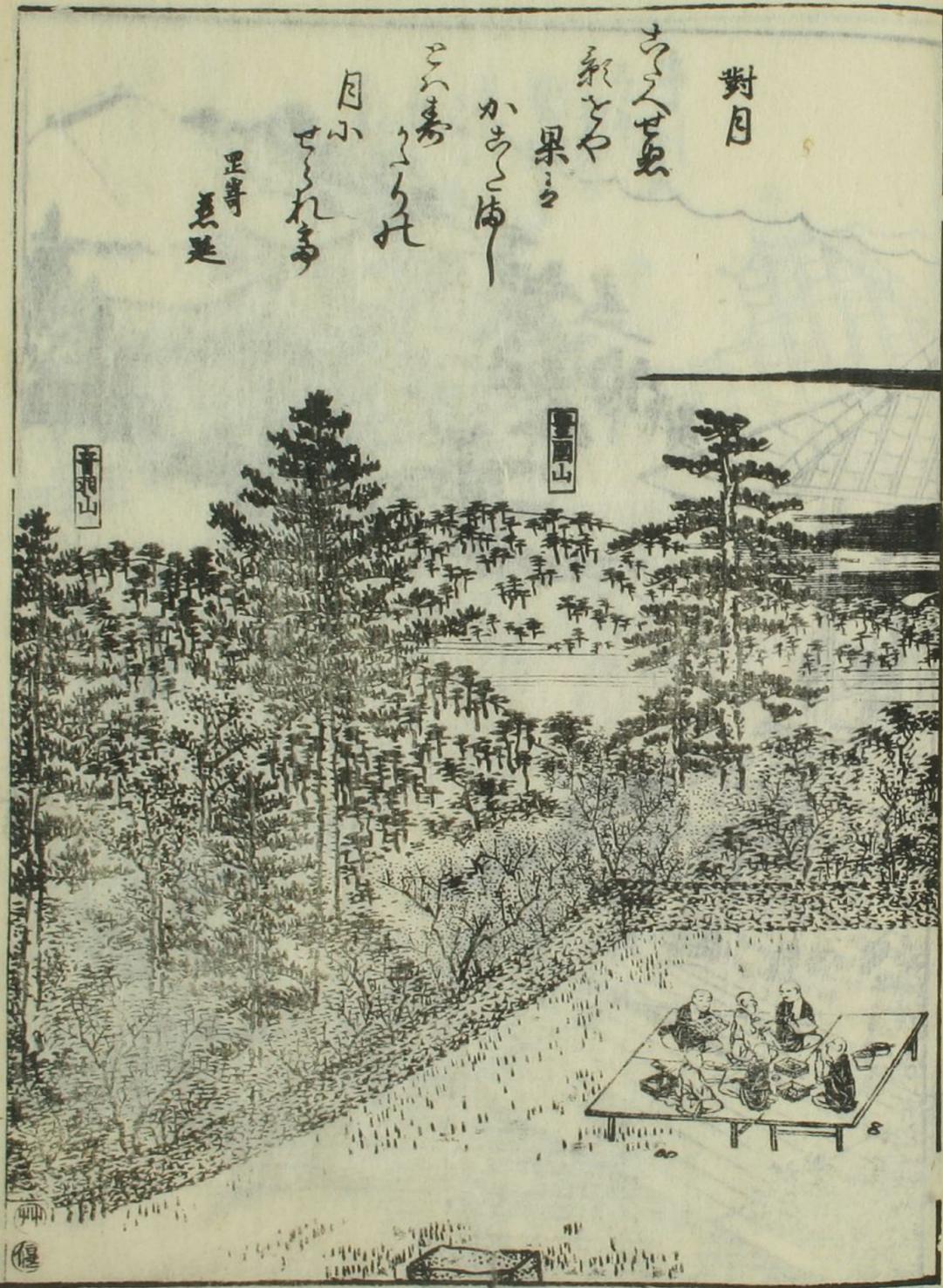


清水
延命院

緩步哦詩訪寶坊
 百花歷亂送斜陽
 羽峯吐月飛泉濺
 鳥野鑽霞遠樹蒼
 信求圓通感懷起
 迷窺色界似相藏
 乃公能為憐苦輩
 還使塵躬相淨疆

龍州盧女孫
 熊谷氏貞蘭





對月

あふせぬ

糸とや

果と

かあしゆ

とよき

くさけ

月小

さしれど

星寄

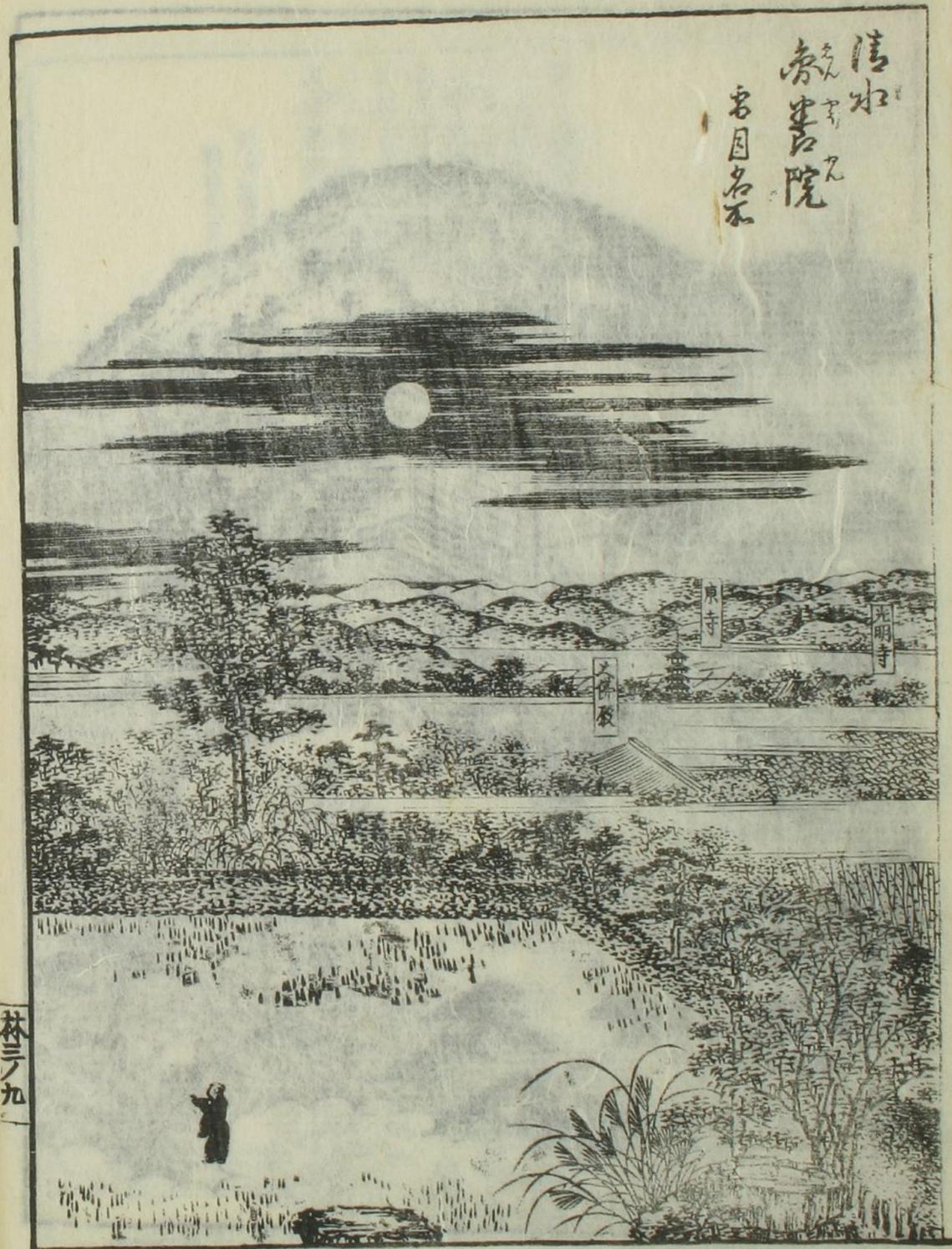
美是

千羽山

千羽山

印

印



信水

光明院

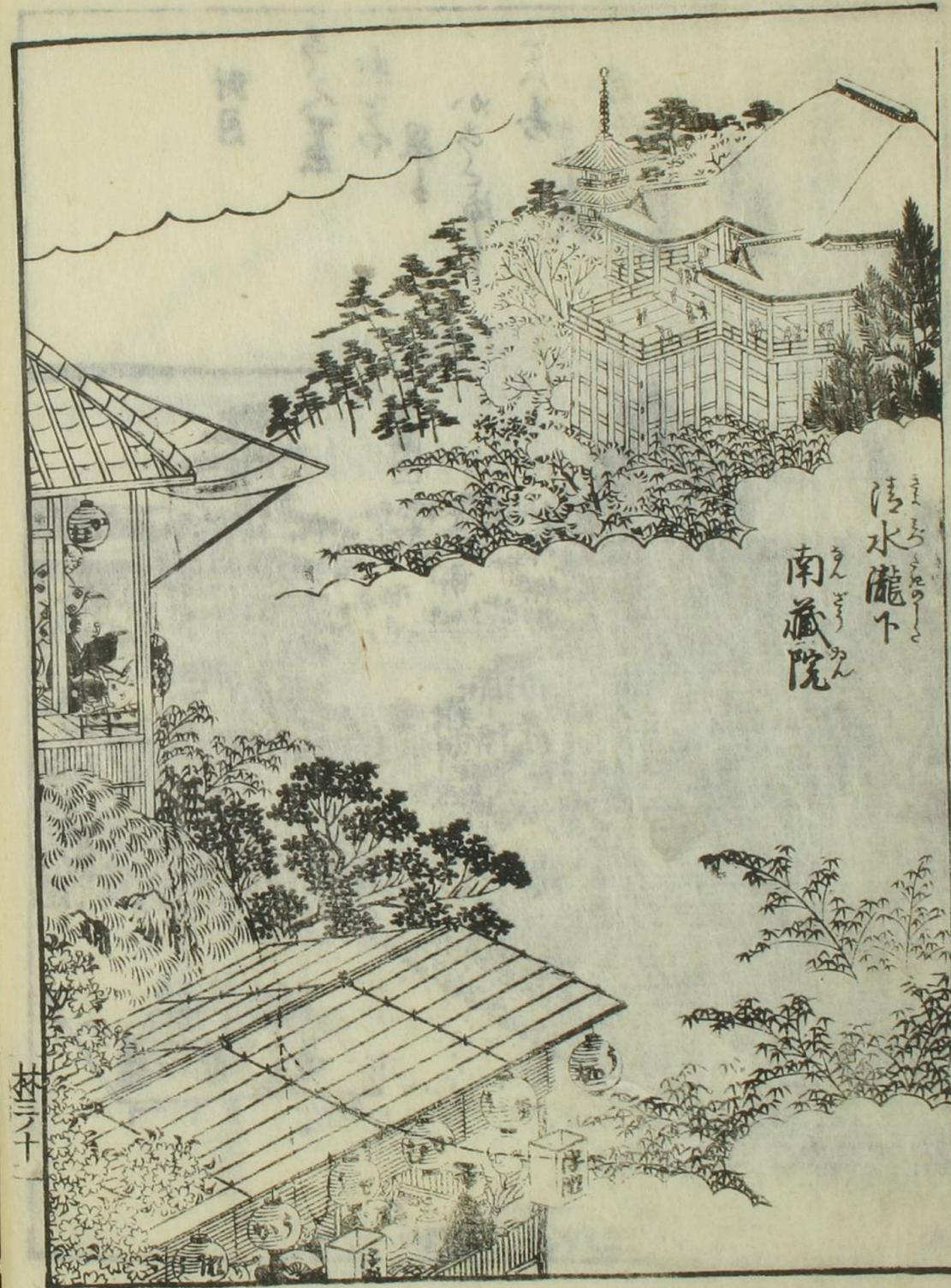
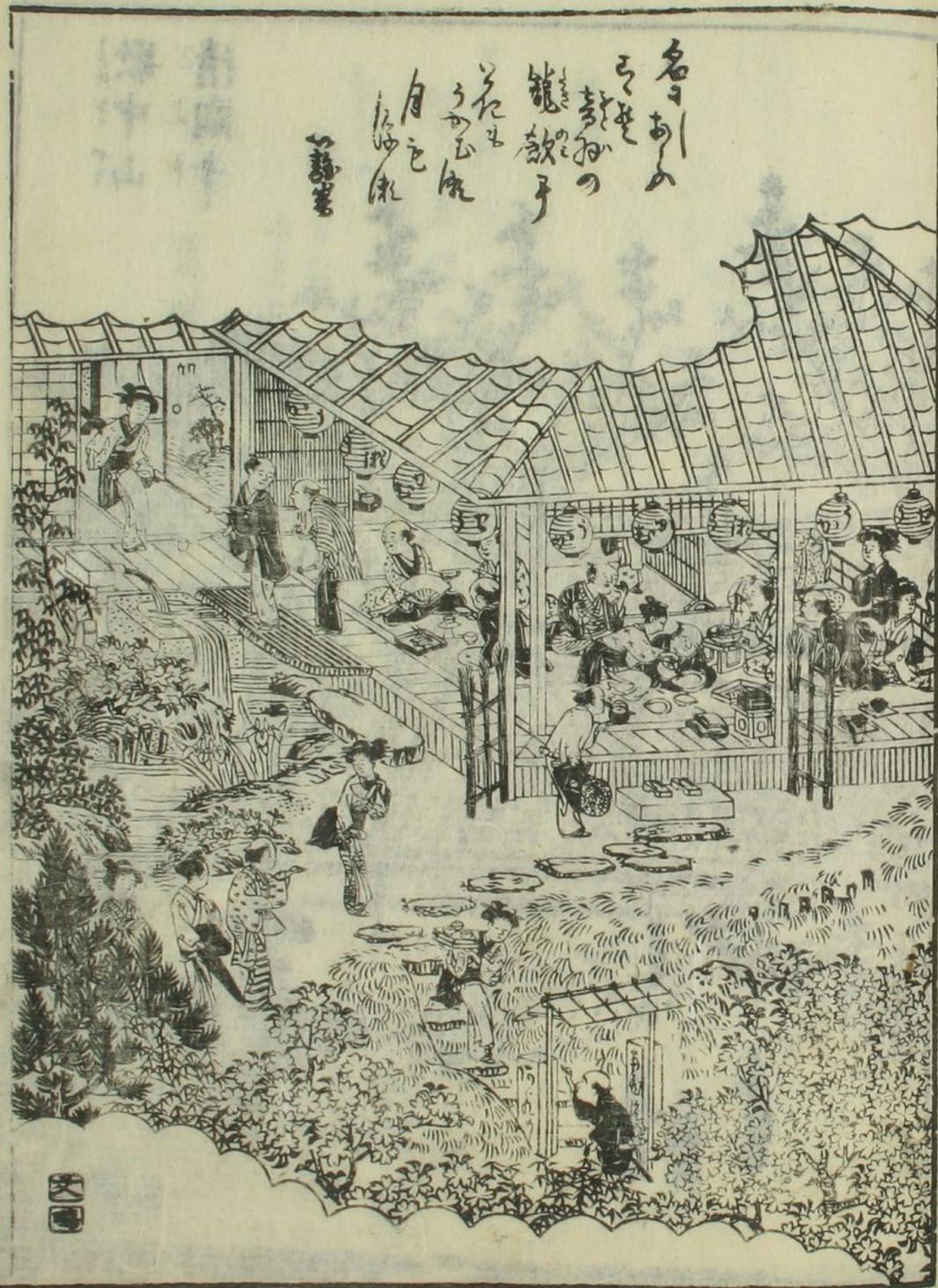
名目名不

光明寺

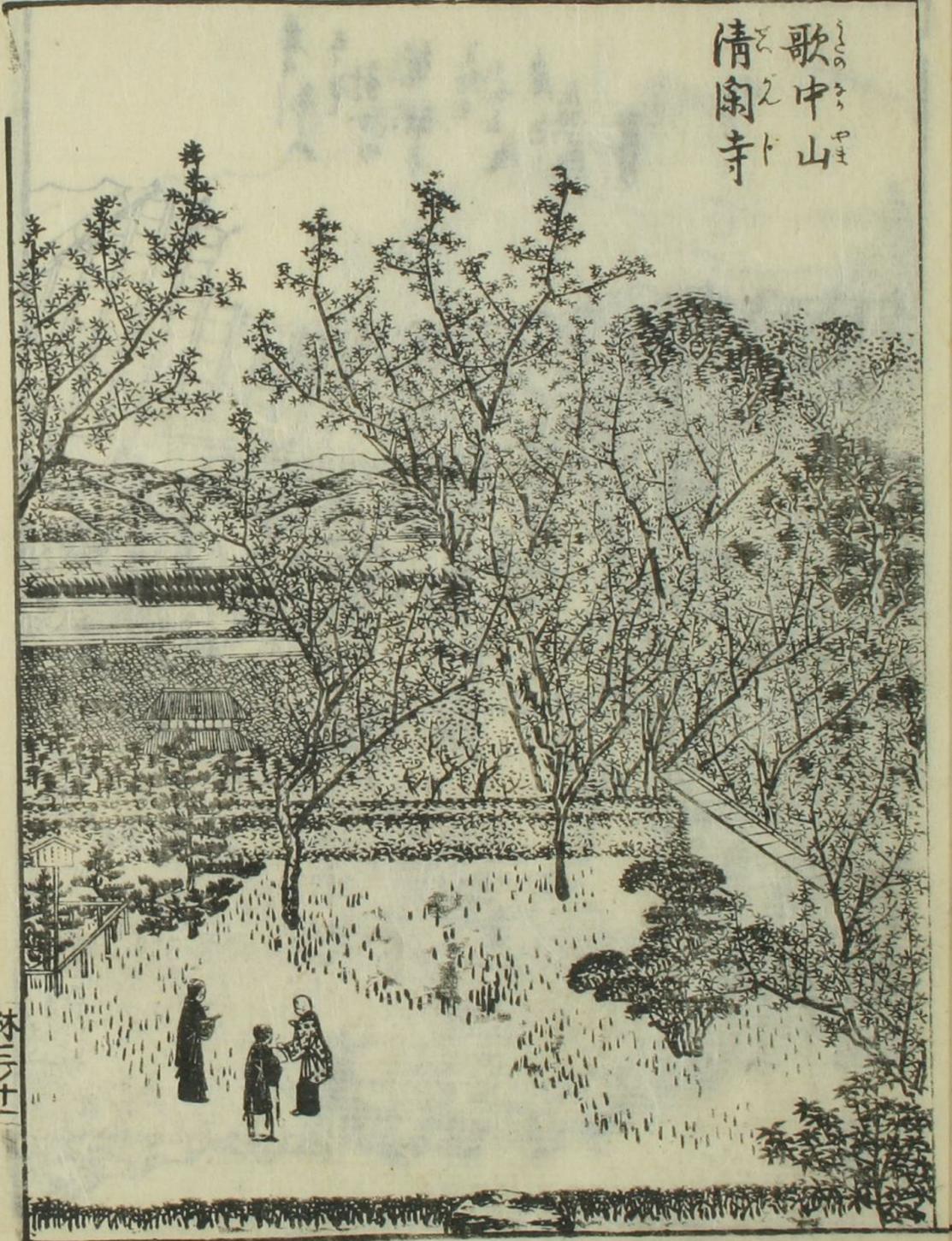
東寺

大徳寺

林三九



歌中山
清閑寺



林三十一

秋典

夕ぐせたる
心ゆく草花
あそび
秋の日記
夕暮

巻延



卯
辰

蓮義王院の堂前の林泉は燕子花咲みどしく初夏の幽艶なりむう
 は堂のやうに醜泉ありう一之寺釋者百練抄にも見ゆ今之改位
 水ありん泉

著聞集云

永義元年六月八日蓮義王院の義仕らまは後戸の神乃角より山
 支四の向み黒き山ありたり岩よりやんとる老僧出まて云は水
 とは何の料みほぞは水細い道とて八功德水其地利益會藏方
 俊水ありありむするそよりく精進しく汲とありと云やとて
 賞ふたり去後其伴の後戸の石河乃下に現る水ありたり貴後汲れ
 ともそよりたりとてふまぬ時におもひたりとて思ひ汲りたり事
 當時その水は汲い河のころ美たるより賞末さ

法住寺古蹟

今之書院院智積院の地なりん泉初ノ太政大臣藤原為光之建立
 文六金を釋迦師と安後其後 後白河院より仙院と建
 法住寺所新といふ名泉あり桐井といふ今とてりる

長秋集云
 永義二年法住寺の屋上のお合の園路を築きしを云
 いろくの木をみたりうのれと名とてきたるを云の園 後成

林三十一

平家物語
 永義元年二月廿日法住寺殿へ所存ありし所新の應保元年四月
 十三日所移徒有く後山水立かとの所志河らひみ至るやう
 なるふせをせありく新日若新修其地を小祝をせり

善源院

蓮華王院の東ふわり天台宗開山盛伯法印本願の勝從二位權中納言前
 備前守藤原長政の息女豊長秀吉の内政又慶院慈岩大姉の建立
 あり圓縁の後崇源院勝一位和興大姉の再建
 あり英岩の所姓より事ハ鐘の銘みりる

雅ありく英岩より大客殿櫻桐間松間ハ俱小宗達寺桃間上段
 の松鶴ハ俱日永徳の茶藁間も同寺と云傳人
 或云古右京の南廂

杉戸貳牧 西表桑東表獅子 宗達寺東廂杉戸 南表柏鷹 同北西側
 西表獅子東表犀

杉戸 東西白澤王 瀧本坊昭業翁寺之小客殿慈藤間弱竹間菊間
 北表張果光

上段樹木都々宗達寺袋棚小襖 古法眼等 櫻ハ老しく金極杉也
 の客殿書院ハ伏見城の 什宝 壺銀器等 豊大商持也。云井ノ院也。櫻下子
 齋舎とて小引移たり 風爐。茶壺。茶碗。御座。料紙箱
 。花生。左文字太刀。西御厨。和琴。文墨。核抄。禪云儀。繪盤。書籠。右
 秀吉の所持。豊國神師秀頼の十二支等。秀吉の係秀頼の係。官公
 所視。虎画明兆等。十三佛巨勢金剛等。菅神自法義等。品
 到得還年並別奉一休等。當教十品あり 田舎

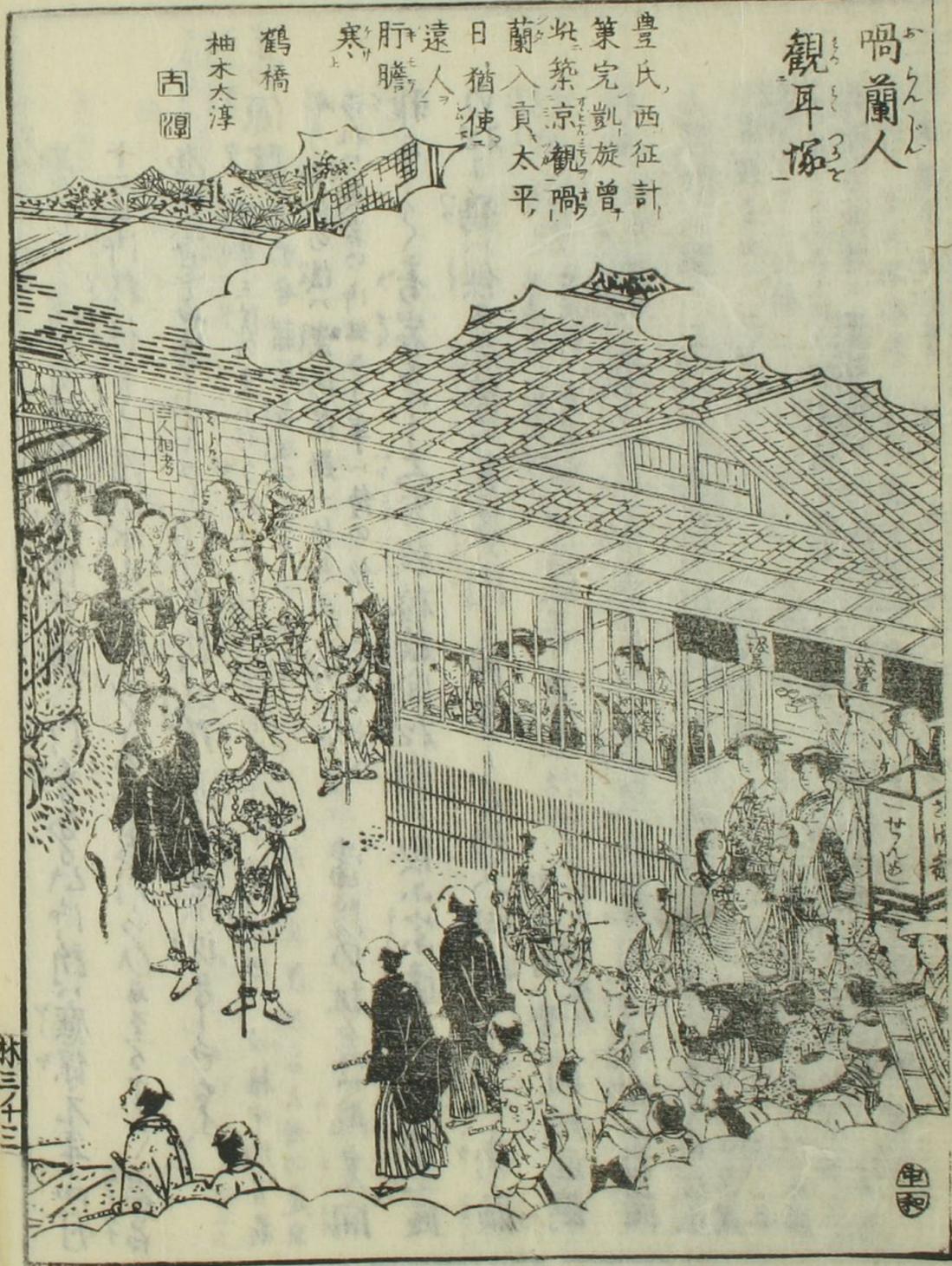


喝蘭人
觀耳塚

豊氏西征計
策完凱旋曾
此築京觀
蘭入貢太平

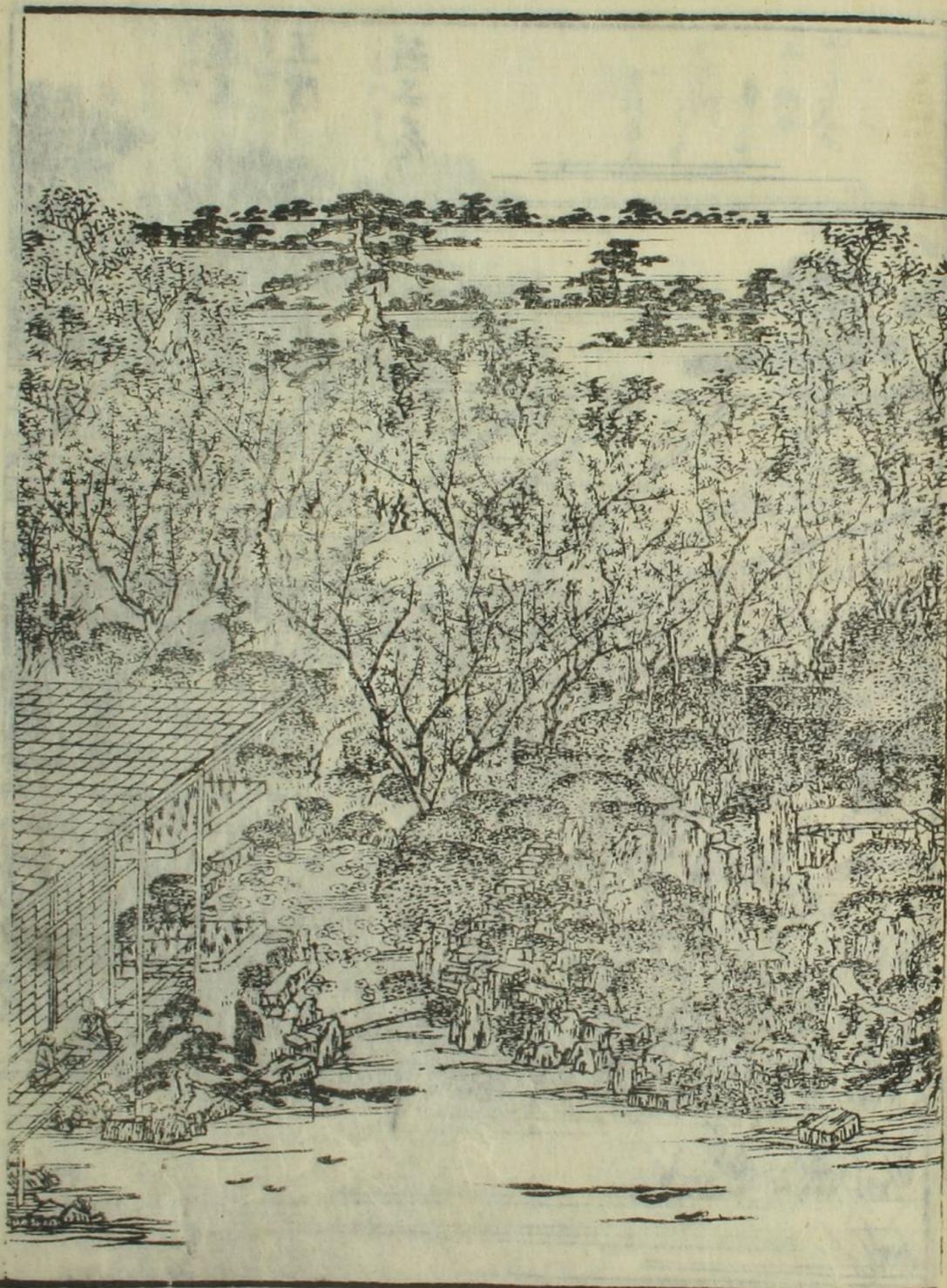
日猶使
遠人
肝膽
寒

鶴橋
柚木大浮
古園



林三十三





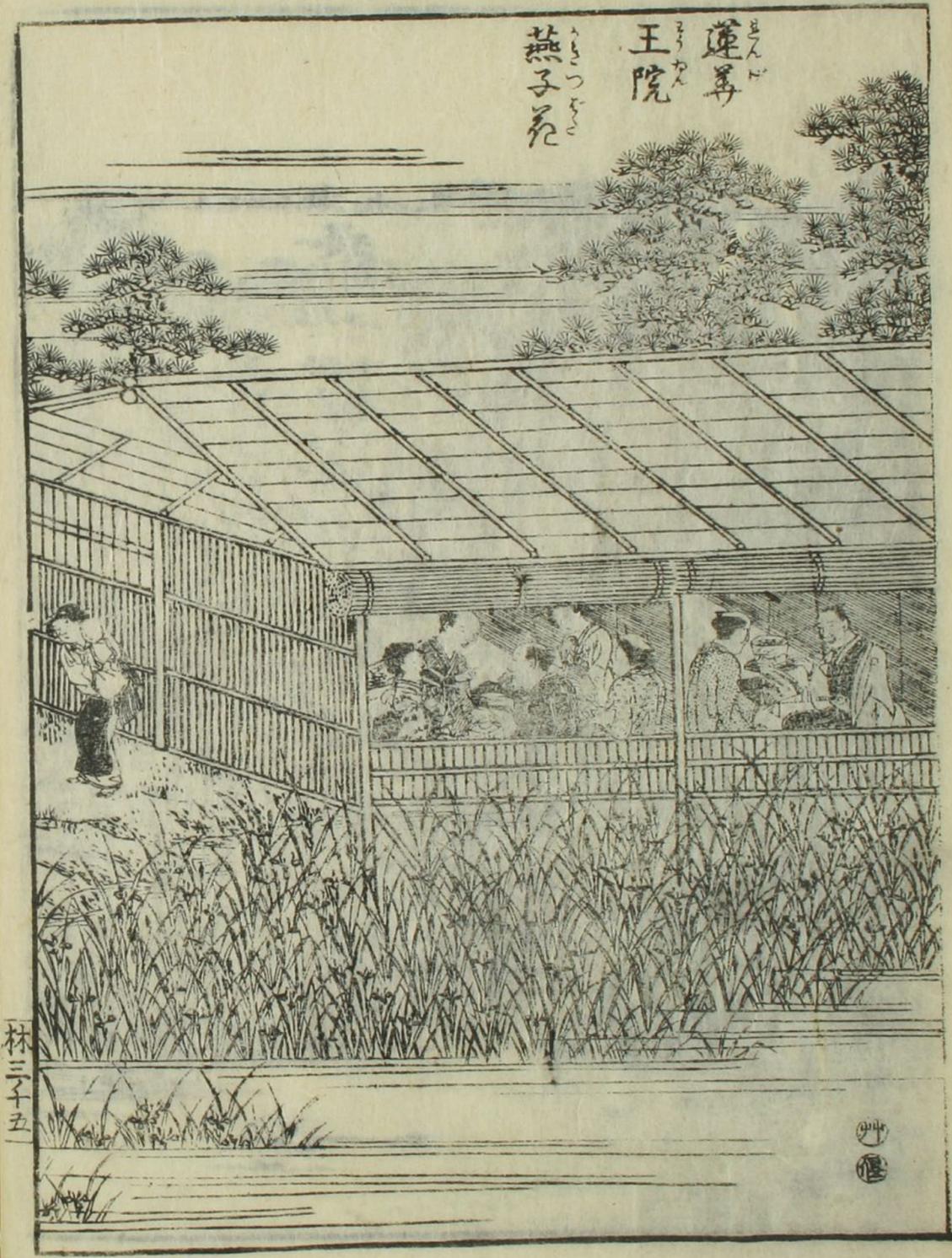
智積院





燕子花
薰風吹動綺羅衣
巨佛堂南步不違
榻上番人何取語
笑言紫燕碧池飛
鶴山畑雜籠

かきく
かきく
かきく
里村居邊



蓮華
王院
燕子花

林三子五

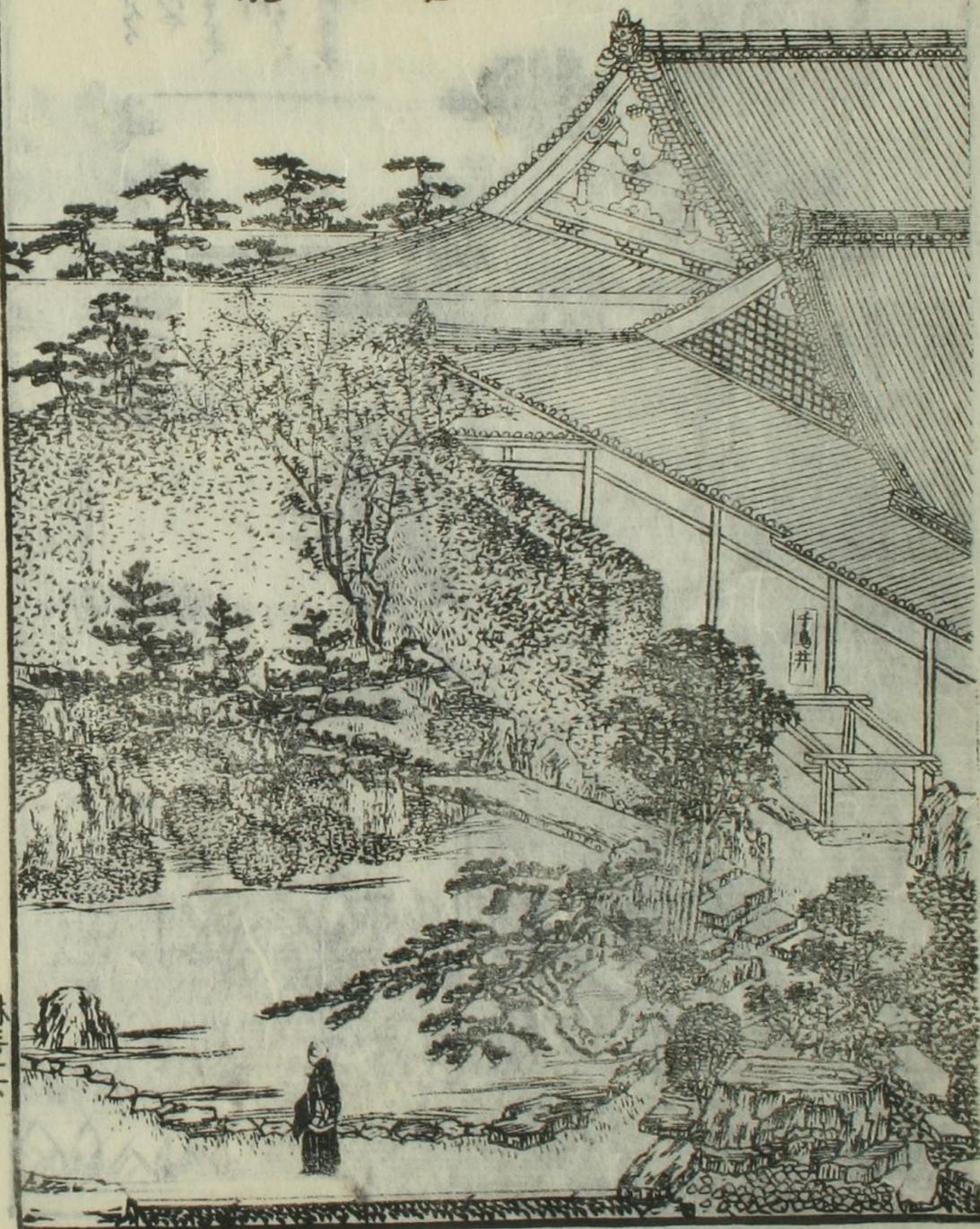
卍

小坂遠州依



其一

善光院



林三十一

東隣の空地あり墓六鎮守の傍あり山は地皇神並に八重塔の傍に石
 残より善明寺の内小角山塔あり常樂菴号は額に後光明寺寺殿
 なる山古跡名所多し塔頭は次下小著次

東福寺什寶

大政官牒

當山境内四至文 從光明寺殿下 賜向山堂一

藕絲袈裟 壹頂

。神明より向山園所(附屬)後
 蜀紅錦包物一片
 後水尾院帝所寄附
 菊貼錦包物一斤
 櫻所院帝所寄附
 唐東宝篋一重
 女院所寄附
 右神宮龜甲御襪子 向山 感得 斤
 向山自讚頂相 一幅
 同 乾孝和尚贊 一幅

聖一和尚之四字 光明寺之唐台鏡 兼此公廟之主 壹幅

維摩像 顧愷之筆 壹幅

跋陀婆羅像 名舟筆 壹幅

顏輝筆 十幅

牧溪筆 二幅

内季昭筆 二幅

張即之筆 二幅

吳道子筆 四幅

顧愷之筆 壹幅

同 佛光園師贊 壹幅

無準和尚筆 十六幅

殿下道家公口稿 壹幅

向山聖一園師筆蹟 六幅

持明院太上皇宸翰園師筆 一幅

月輪殿家進狀 一幅

惠日山圖雪舟筆 一幅

東洲和尚 宋人 向山法子 貳幅

釋迦像 吳道子筆 壹幅

左右文殊普賢 同筆 貳幅

佛鑑禪師自畫讚頂相 壹幅

左右捌之鳥 同筆 貳幅

釋迦文殊普賢思恭筆 壹幅

竹樓記圖 陳季昭筆 壹幅

岳陽樓圖 同筆 壹幅

醉翁亭記圖 同筆 壹幅

兼天寺額 無準筆 兼天 壹幅

方丈額 張昂之筆 壹幅

旃檀林額 同筆 壹幅

十六羅漢像 可翁筆 十六幅

五百羅漢像 北殿司筆 五十幅

鐵拐王蟾 同筆 貳幅

涅槃大像 同筆 壹幅

北殿司筆 百十幅

雪舟筆 二十幅

元亨釋書

虎関和尚真蹟 全部二十卷箱入

張旭草書

一軸

元菴和尚書

貳幅

陳季昭書

三幅

方廣鐘銘

貳幅

岡山護摩具

壹箱

仰鑑禪師印箱

八幡宮 神札入

壹箱

黃金舍利塔

壹基

赤塗唐櫃

入外箱四重

瑤瑁茶臺

六十箇 三箱

東福寺塔頭林泉小石門終てらに奉る

三聖寺

北門の内小あり古天台宗釈迦阿難迦葉等八伴殿に安んずる神之

岡基

兩全剛運慶の他明德年中足利義滿之建立寶貴禪師公

萬壽寺

今三聖寺小兼帯改初ハ坂川院永長二年の茶創平治三年

靈源院

新泉和尚岡基付室小葺駄又画像伴舍利あり後醍醐帝

海藏院

虎関和尚の住持之和漢彈利之虎関和上謹師謙願東山寶覺

翰林五鳳集 海藏院偶作

南北東西不定窠一盃三事是生涯 近來自笑如蜘蛛到晚區々解造家

虎関

正統院

香一圓伴の住嗣月船和尚の岡基之北殿司とありに栖中入

栗棘菴

白雲和尚岡基之庵謙之惠曉謹ハ伴照禪師

心徹叟墓

墓碑云

普明國師行業實錄云 寺後溪潤深邃而與開山祖塔阻絶衆病之久矣

通文橋

額通文

其親相攸支通天作得賀之 揮却風斤支落霞虹霓千尺截奔波

普明國師

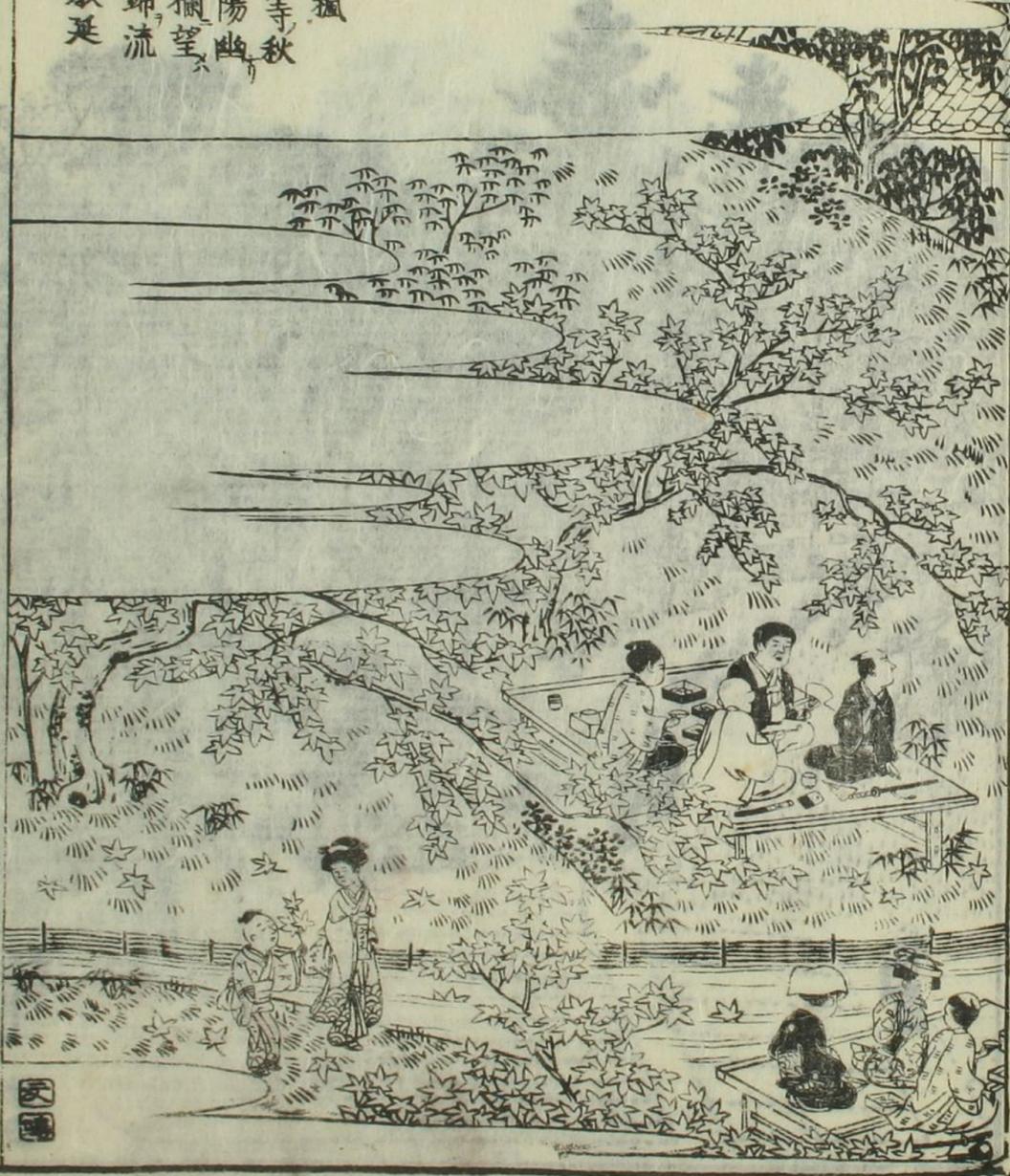
希宗院

客殿の裏觀之東の山向小茶亭あり探薪亭といふ

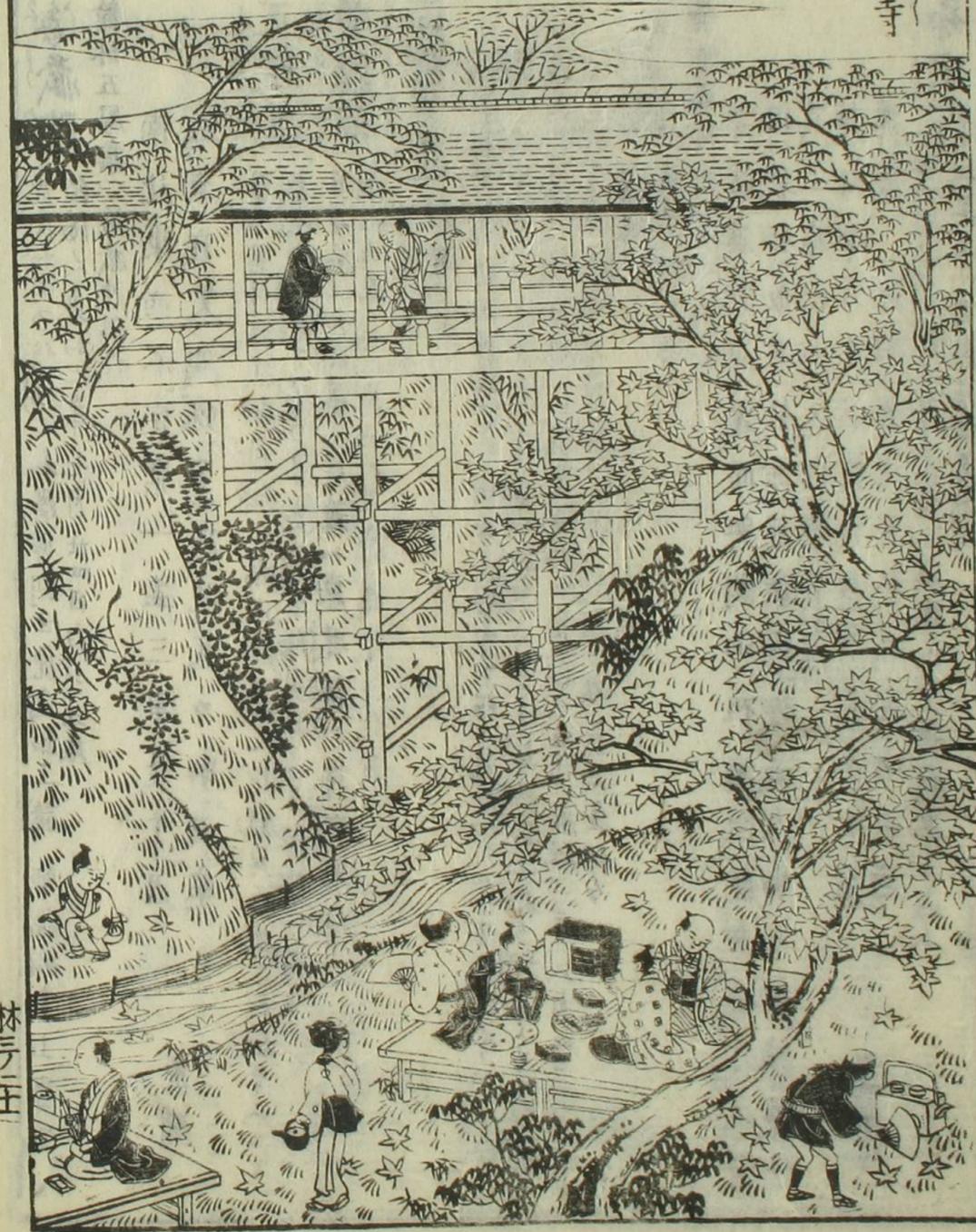
遍天橋觀楓
 霜染丹楓蕭寺秋
 蒼々林靄夕陽幽
 通天橋上凭欄望
 一道清溪帶錦流
 瀬尾教延

洋書蹟

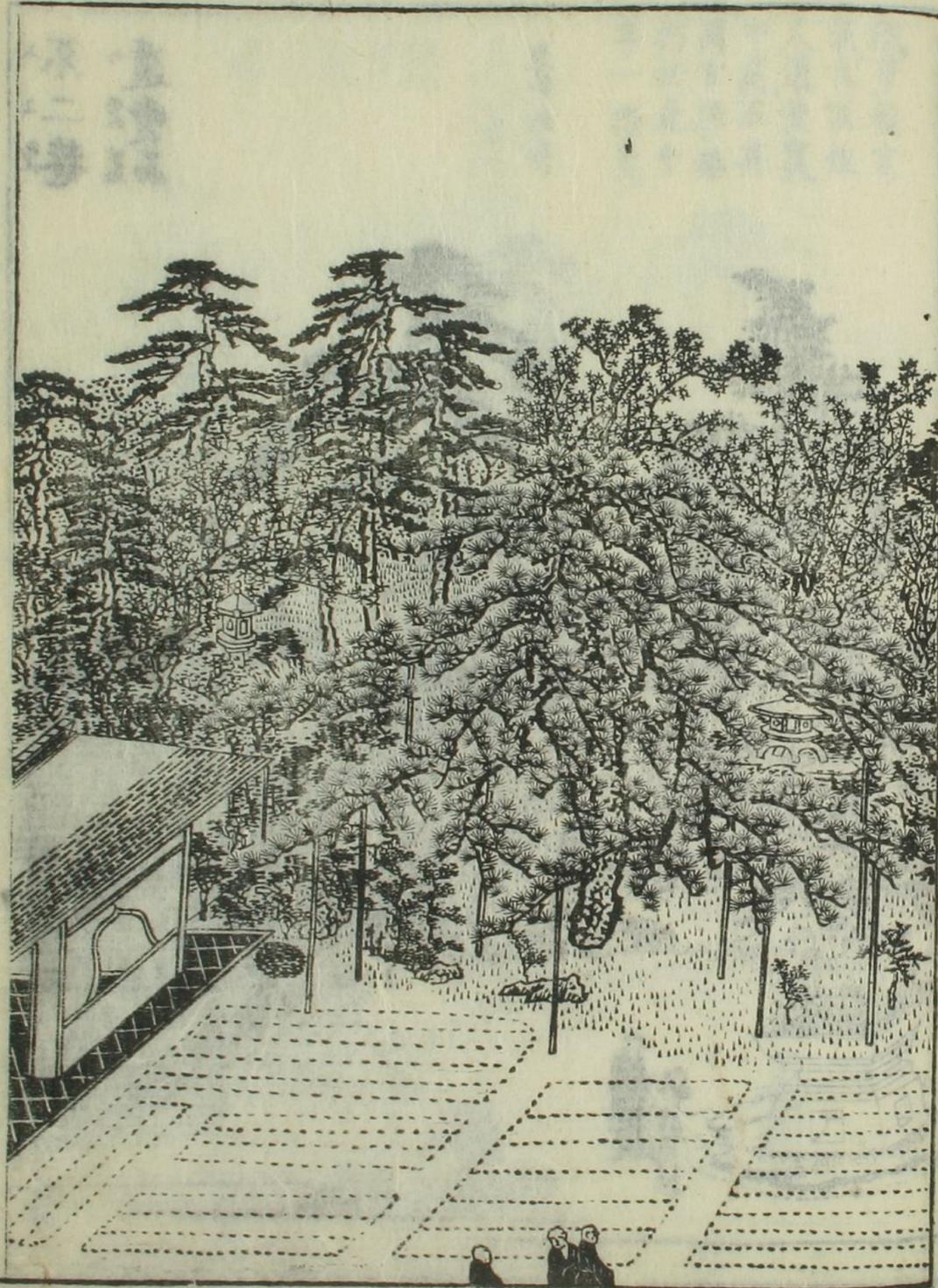
天橋通入
 名をえ
 楓の
 りとちれ
 格々
 あま
 かやせ
 ぶり人



東福寺
 通天橋
 觀紅楓



林三王



惠日塔頭
とんかん
靈源院

林三十五

不二菴
遺愛石

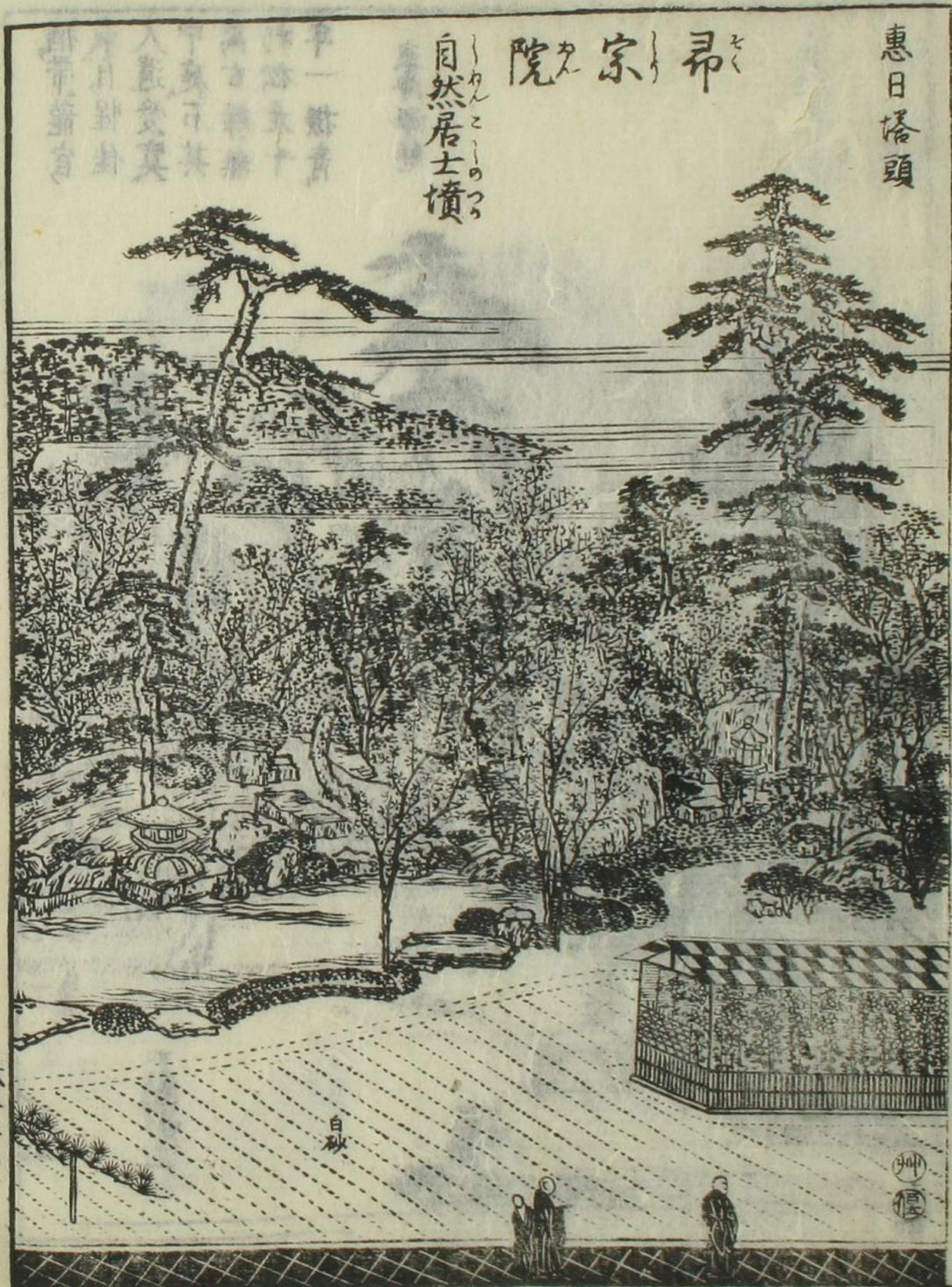


猶帶龍宮
氣自惺佳
人遺愛寔
中庭石其
萬古歸無
朽松是千
年一撈青

東海澤菴



春日菴



惠日塔頭

希宗院
自然居士墳

第一野青
山崎本十
下坂可其
入殿受莫
八月對卦
即前新有

深三十一日

白砂

州

癸未孟秋六辭

松雲竹堂題



釋文

君不見蓬萊之山在海中靈秀之氣鍾異石水噉苔蝕千年
餘峯巒怪奇如刻畫造物偷之出人間天吳海若皆嘆惜肥
州太守好事者愛此劇於青娥眉上有孤松蟠鬱虬龍之形下
有百卉點綴瑤瑤之安安排玉盆置清池日照中峯生紫煙浮
嵐滴水清漪漣始傳此石產蓬萊還道蓬萊在眼前高軒置
酒車馬來滿堂賓客皆回頭地畔石還為寺中有問誰為其主相
雪曾知故太守問胡名遺愛太守惠政人不謗上人曰三摩沙石
色依舊蒼松根君不見岷山隨淚碑載久龜龍剝鱗甲宣如良安
靈雲上雲物衛護千百劫留齒字改書
癸未孟秋下幹 樵客竹堂題

寬永二十年朝鮮信使申濡字君澤竹堂其稱也此篇其自書州法
難讀今就真跡臨臨併附釋文按似紫煙之下脫一句然真跡亦
如是不可考也姑佳博雅云

松雲社氏識

有序合不錄

林道春詩

巨掌辟開華岳宵飛為一朶玉芙蓉只看
湖口九峯異何用陳朝三品封怪石早闡供
佛印名山曾愧對周顛按問道安點頭否
須向生公堂下逢石名遺愛故云
寬永二十年十月中佳

羅山夕禎卷叟

林春齋詩

奇石玲瓏淨几間主人愛見小孱頑靈雲一
朶觸膚寸表岳巖根滿惠山
寬永癸未孟冬日

春齋向陽字

湘雪禪翁出遺愛石者非谷冬守細川荒
尚公之所寄也奇形怪狀自然火而然惟
夫匪造化一尤物邪可謂戒和尚希代之
寶也慧嶺靈坐崑崙層城嶺嶺危几遠
出間足以莫幽居出諦談奇章之嗜平泉之
戒袖中東海心東蓬萊可併按矣去歲韓
使申濡及東都羅山其因甚察品藻斯
后以扇潤色三子者已撰各探得龍珠被
餘其鱗甲余又奚言雖然如言于魏榆
化於穀城者彼之遠祖我之同姓良寧並
后古之遺愛也况禪公羽之需者所據豈
用固讓為哉迺擬十韻之狂斐以續貂而

已

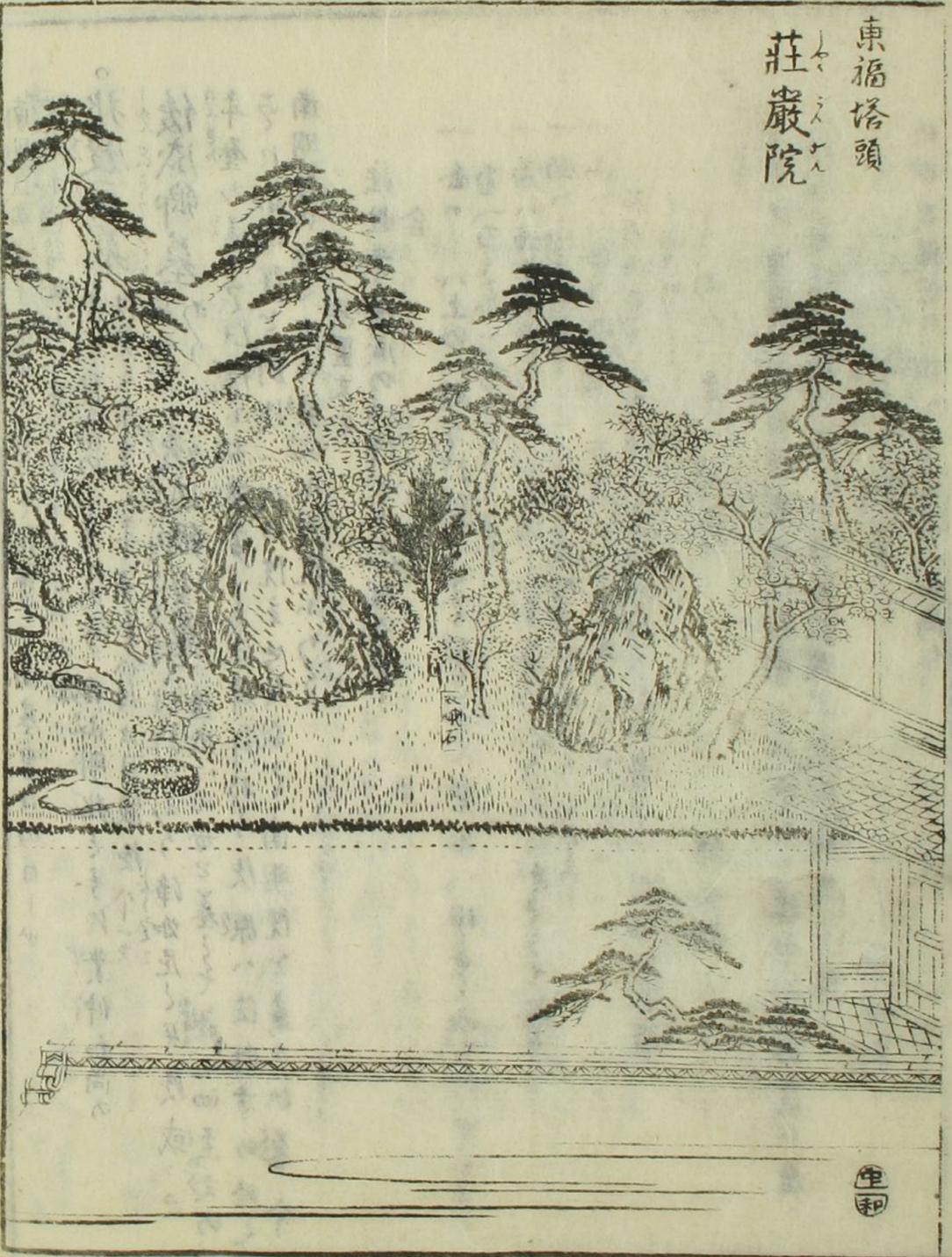
一羨太湖后萬古小仇池水匯連三島雲
晴秀九疑危峯鋒刃競峭壁画屏奇鶴
怪巢松封龍思潛岸涯神功加白玉鬼斧
削青磁涂出兜明洞似遊五岳伎德嶠曾
在此佛日既相移竟可追獲軼留圖觀郭
聖苟除元亮廷又被遠公麾遺愛為僧寶
傳觀要盡期

三州泉也兜明狂愛石丈出涉筆於凹凸
巷之詩便堂

杜氏倣書

ちんりの山より書きしおのめりてや
大守に志す一先んも
久しき山をのりて
大守の身はうらむる
今嗣愛尚の修後
所の益石を安んじ

東福塔頭
莊巖院



林三三

印

獅子巖
緝眼星懸
威百獸赤
毫焰起照
群主

東家
餘
坪
雄
藏

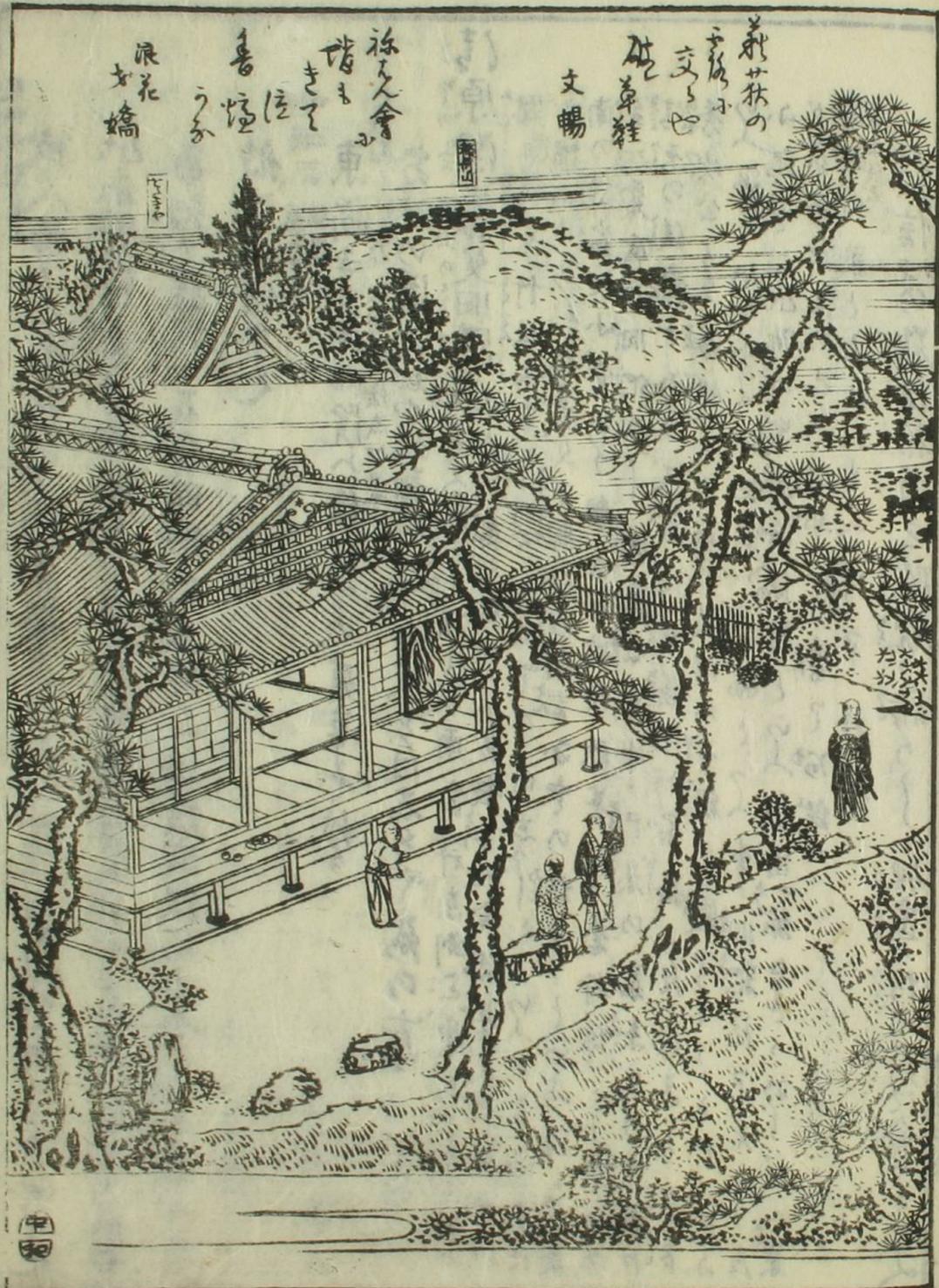




惠日塔頭
南昌院



林三十二



浪花
女橋

喜煙
うか

祿久會
皆も
きて

新林の
文暢

草鞋

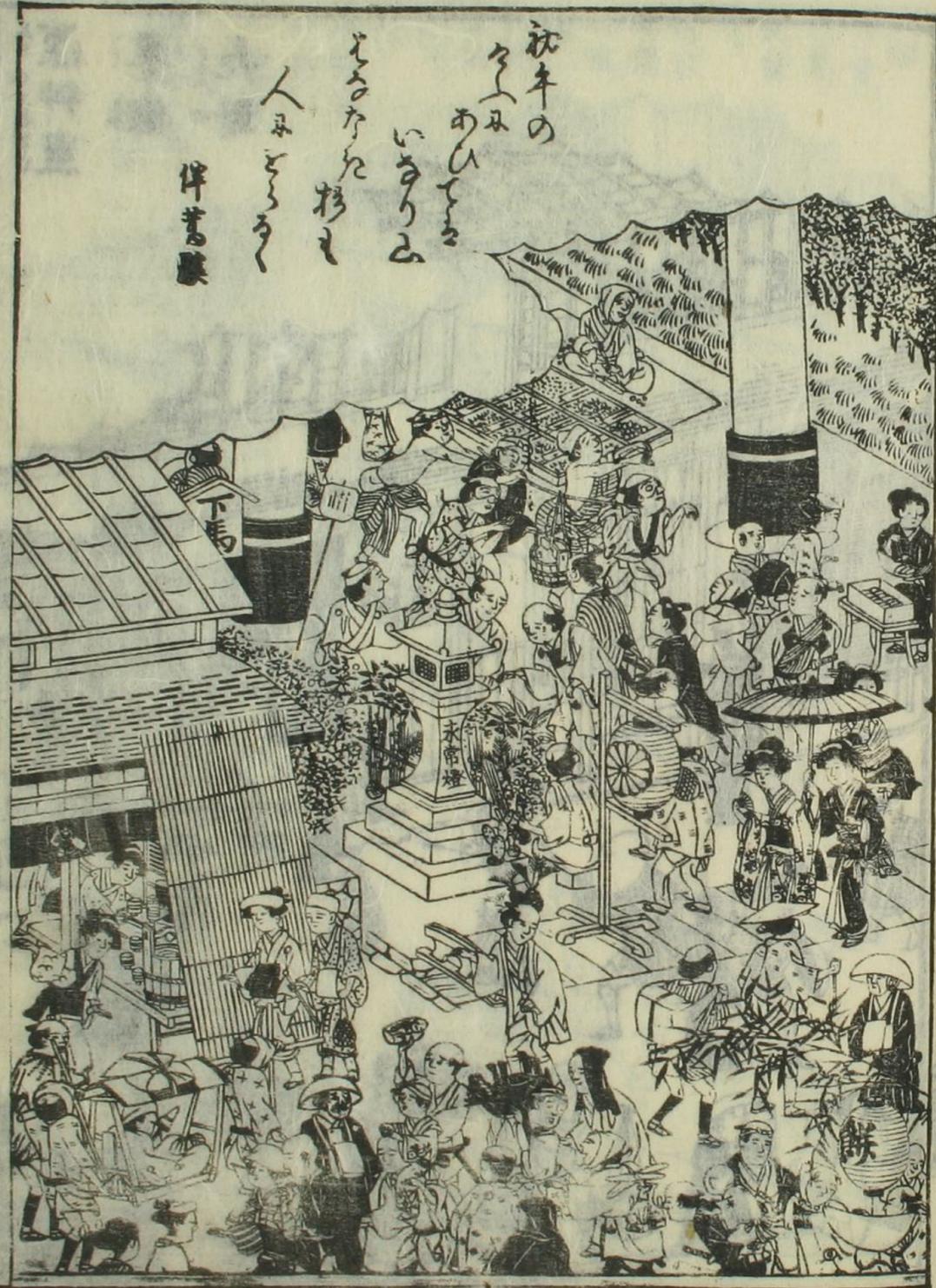


東福寺
南明院

後成御墓
日息女墓
業仲墓
北殿司墓

祿久會
文暢

月五



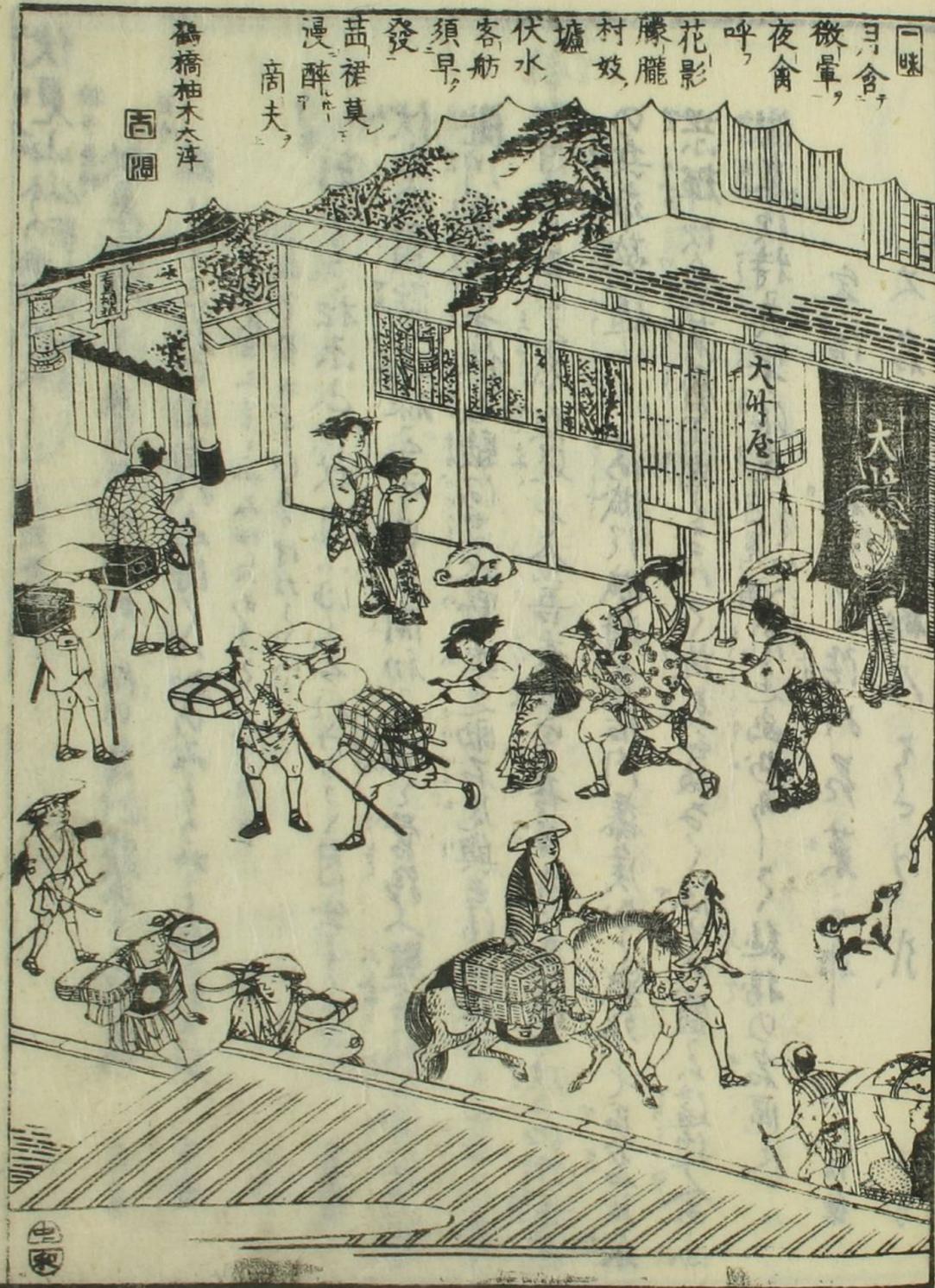
初年の
 夕
 あひて
 いさりふ
 ともかた
 杉も
 人ふとく
 伴書藤



初年の
 夕
 あひて
 いさりふ

三十四

天



一目 月會 微暈 夜禽 呼 花影 藤 村效 墟 伏水 客舫 須早 發 苗 醉 漫 商夫 高夫 橋橋 柚木 大洋

吉 國



深州里 墨條 花魁

林三十五

伏見山今の城山なり一名松原山

伏見の妻こゝ麻の浪とやかりほのるれ萩のうへ乃露
定嘉
帰しと山杖の田面れ色はくは松のみとらせとふらりり
古隆

八月十八日ふしこみゆらりく人くらふ
よ海を歩半歩ひたりはわくく小

形をこ松原の杖凡ふゆへにきさうく月出りたり
伏見院

伏水の霸跡の文祿二年豊太閤初め城を管治し監官佐々内守
瀬川豊若守佐々駿河守水野龜之助石尾與清也殿后慶長八年

七月晦日石田三成が叛逆して金吾秀秋守喜多秀家は城を攻め江州永原
の兵庫款不通して居城は城將を居内藤康成と戦死して兵名永

世不輝次今荒廢田園とる月と松花をばまく孫生の盛る遠近人あふ
遊宴次特字治見月見園風色出妙ありと絶傷の名區と

字治白く松をく陰れ花葉の那
信徳
大名の字瓜松乃ととけり
正秀

月見せんぬしみの珠は捨廊

去来

水寒し生駒にけくまの水

移舟

山河存舊色林樹競芳菲荒苑彈丸盡
空者春鳥飛
多必田夫屋相連古壘間幼兒繞五歳
能説破三韓
高臺見陳跡倚杖日黄昏空谷多年恨
桃花終不言

梅華仙

梅溪城山の北より五岳太町福壽菴大龜谷八科嶺を初集の清香

四方小葉の若華霜葩艶くくして瘦枝小花婉々くりまは賞

題咏萬斛の香瓜儲く天下の美小魁ととら東坡の辞あり

風香雪白大龜溪千樹梅花東復西
若使林逋知此地孤山春靜銷幽柵

龍公羨

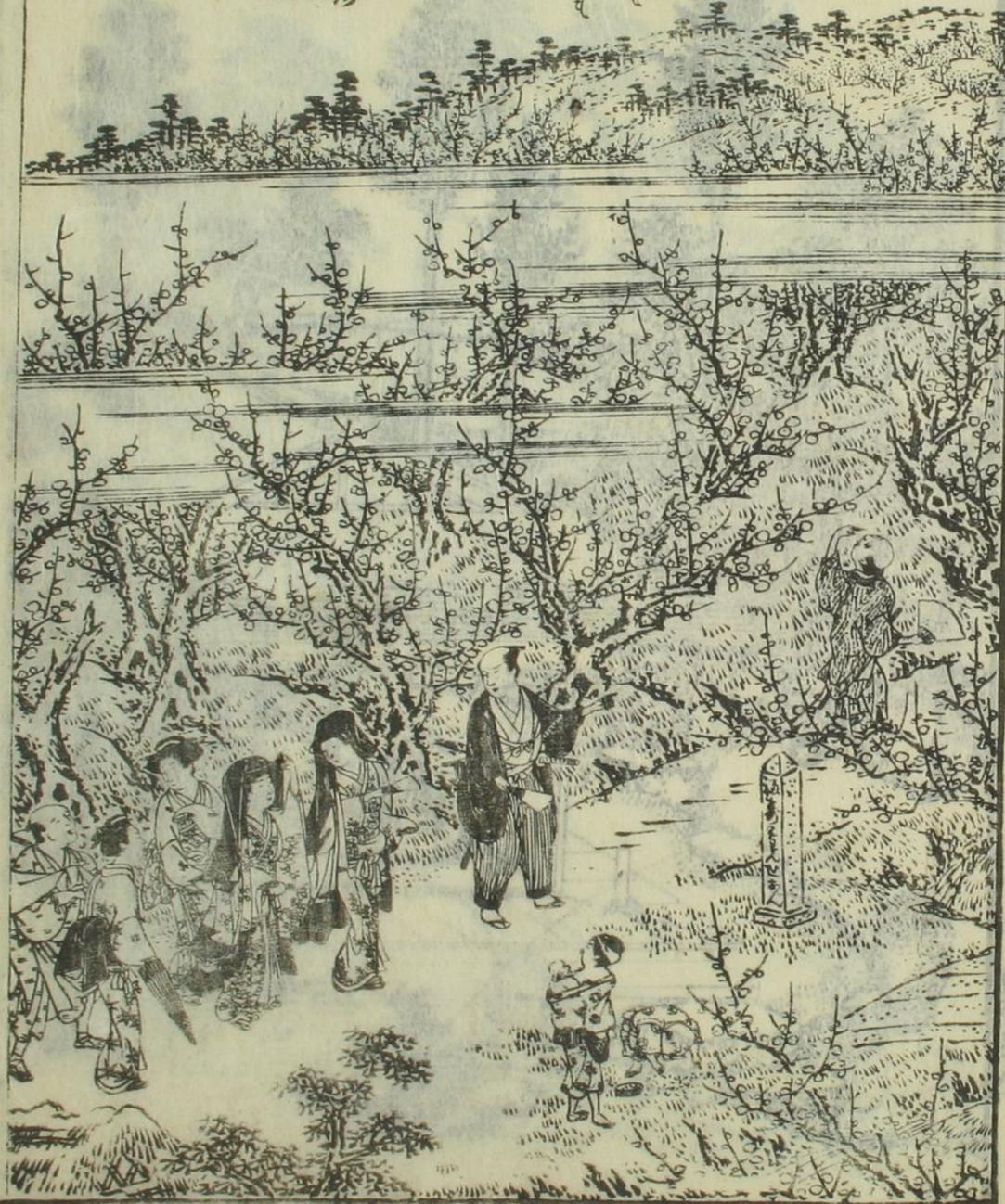
荒丘断壘舊金湯路入梅花春渺茫
齊是羅浮林下夢笑拋一盞酌猿郎

六如菴

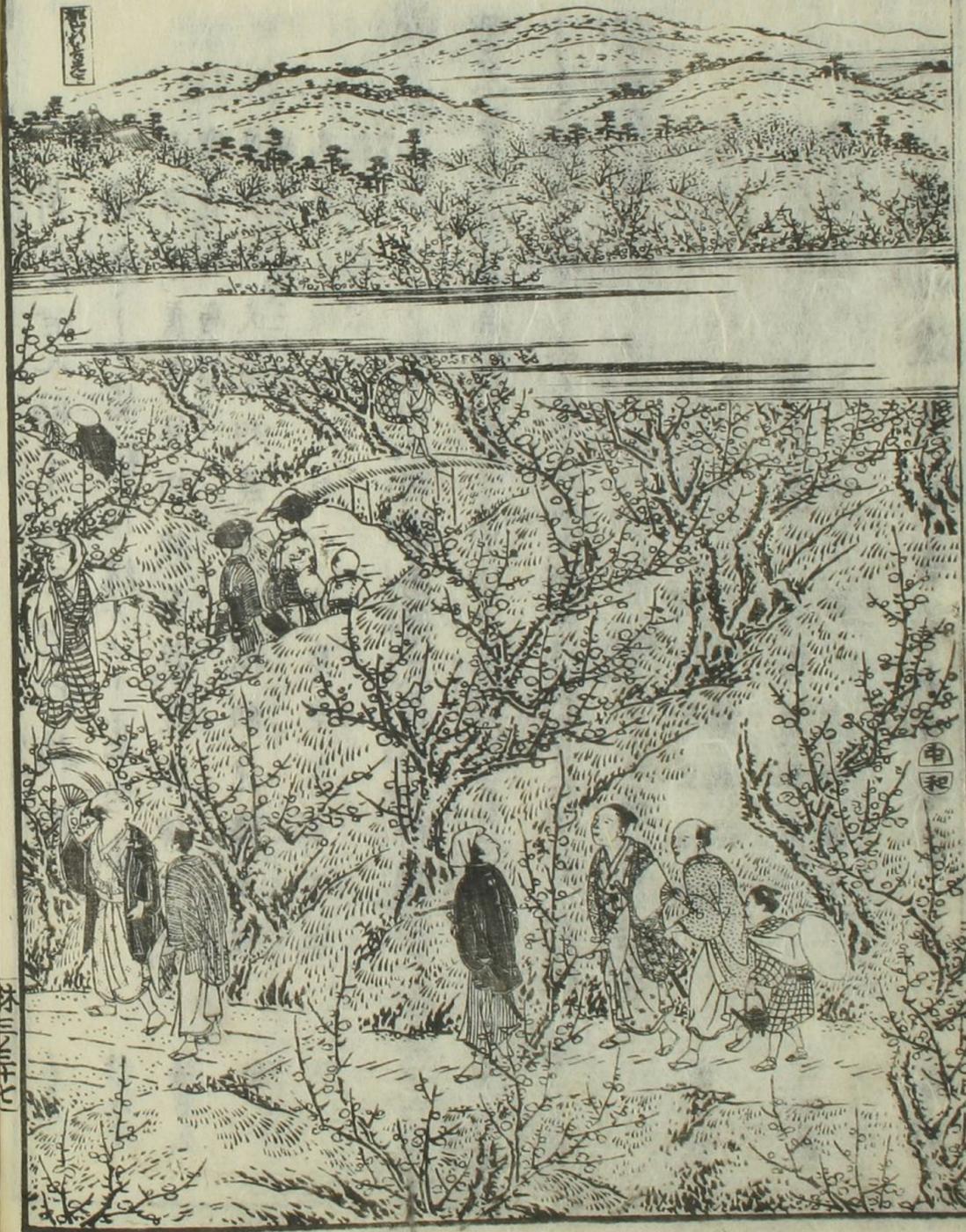
梅遠近岸寸庵く小す庵く

蕪村

見放り
今ゆき
伏見
外
の
ま
ら
き
草履



伏見 見梅 溪



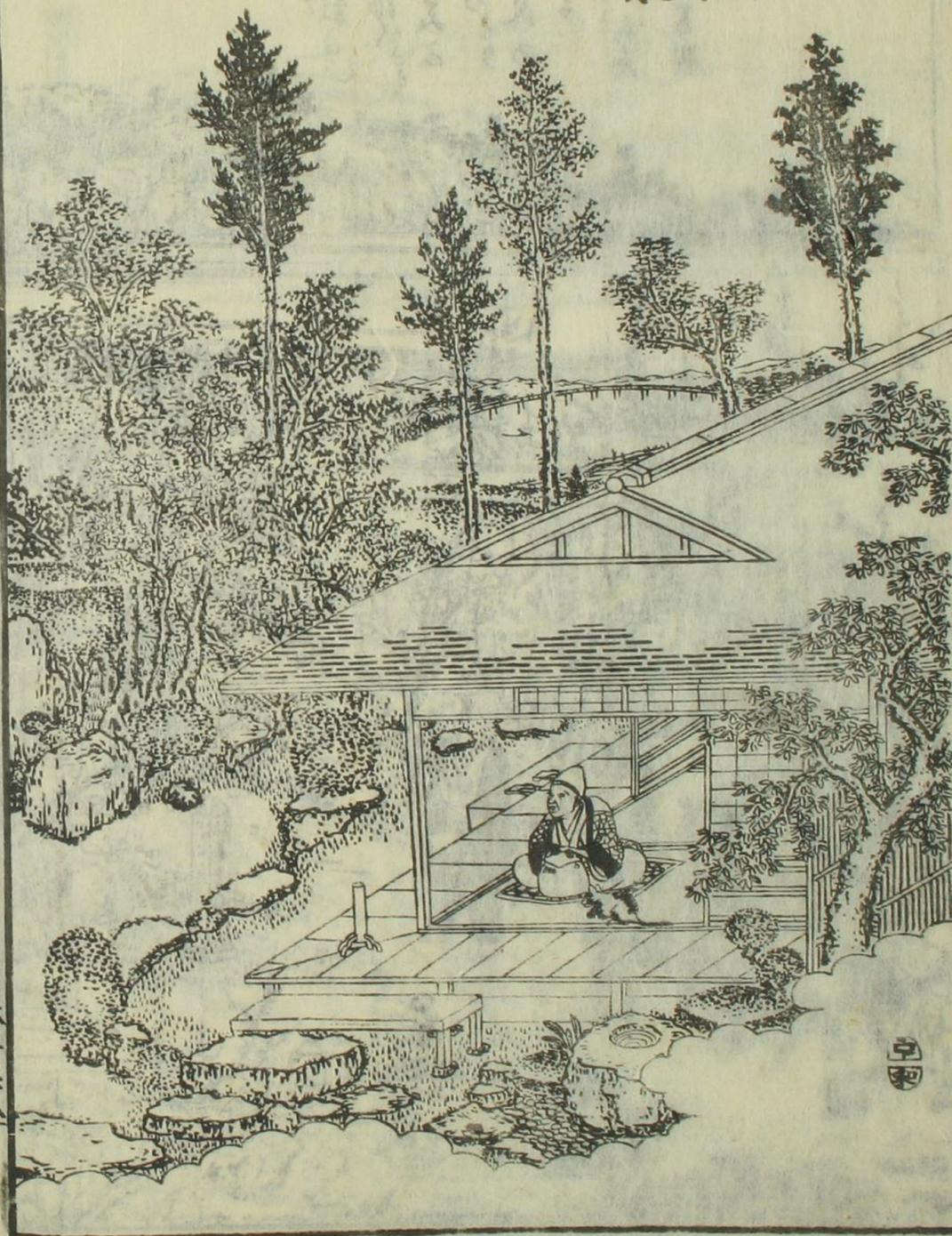
木山

龍徳菴

小堀遠州作



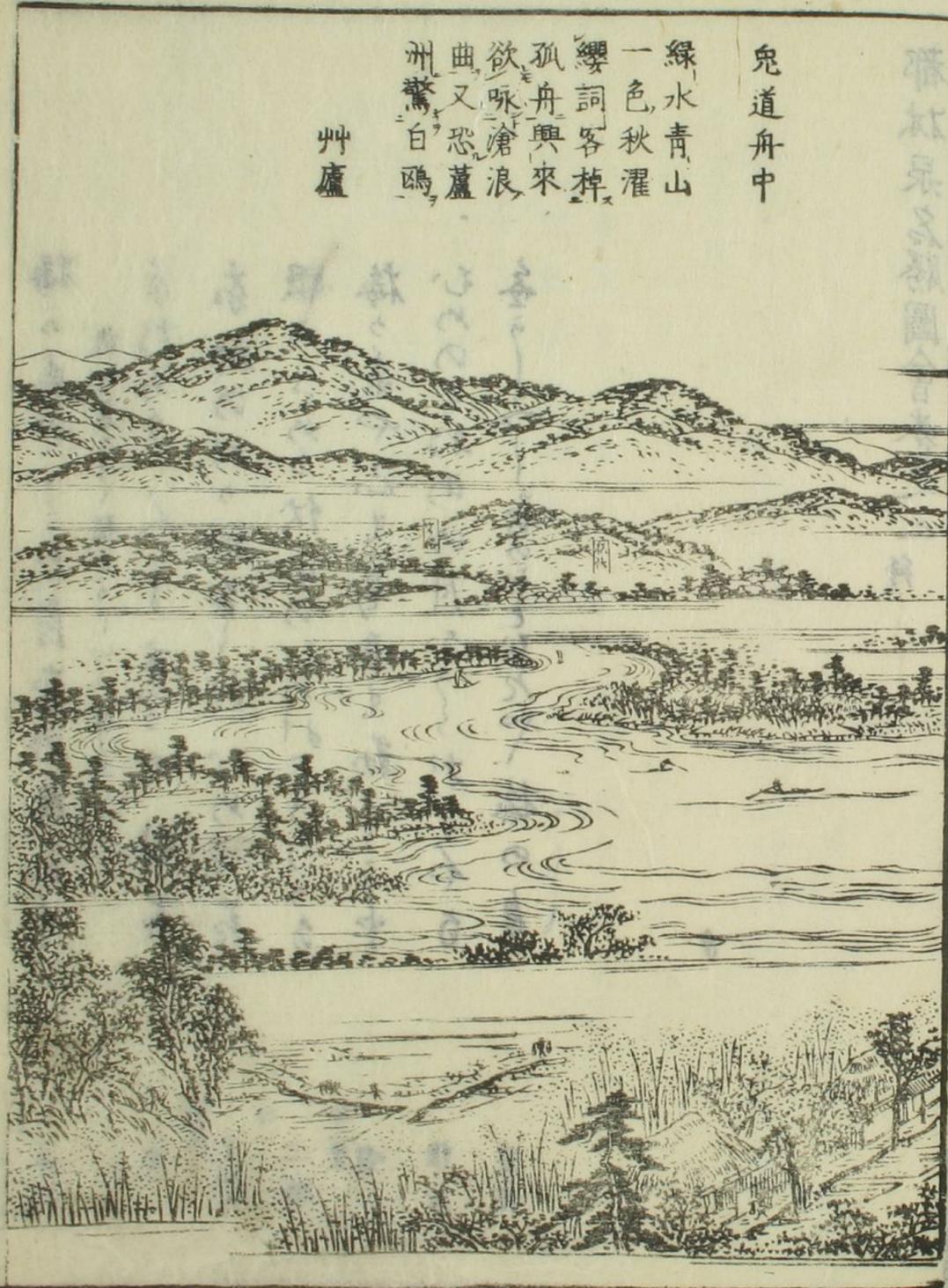
伏水



林三平八

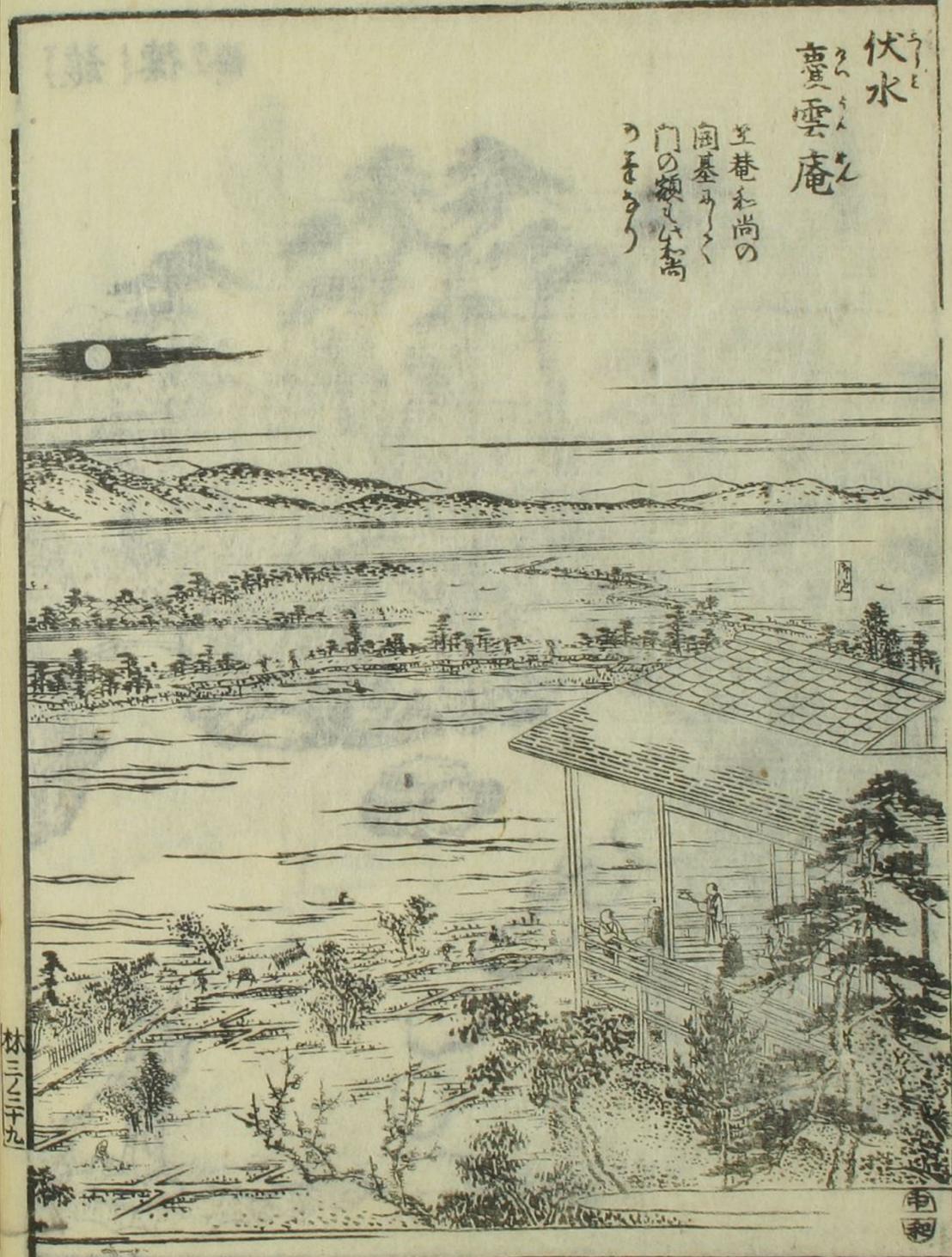


兔道舟中
 綠水青山
 一色秋濯
 纓詞客棹
 孤舟興來
 欲咏滄浪
 曲又恐蘆
 州驚白鷗
 州廬



伏水
 雲庵

至巷和尙の
 園基みく
 門の額は高
 うまきり



梅の香やこぼれ月夜の面白く

仇と思ふく報するこころ車か

手おらう人子薫るや梅花

家神のつら神るうはむめの花

眼のさめる伏水のむめれさうりうも

梅の香やふも葛屋も勤くうや

むめのさめあつ月のふううおそやる

毎うーみる春のおとむたや梅の香

か
子代

全

梅花

大和丸

日

二柳

半二更

唯然

定雅

東直典中
續水青山
一
...

都林泉名勝圖會卷之三 終

林三十四終

夜笠殿

今の等持院跡より一正二位後原家良公の別荘と
園大曆文保二年記云仙洞此向高夜笠殿云云

傍鏡云

文水のそとをうごころりけひー新又と後醍醐院の文夜をうれ
宮やわーと云仁おるも夜笠といふ新小位持人

帝王編年記云

永仁六年七月十九日天皇行幸夜笠殿
正安元年九月九日法皇於夜笠殿有如法經十種
供粮事新院御幸

中務内侍日記云

壬午きりん院の所新きぬことこの九月十三日まのうくれもく
おほくさうほう院のふみくま川らんやまあり

新法撰 正安元年の夜笠殿みく所法行作一附三七日の職法
こゝにまのうくれの夜笠殿とあるやうなる人の延年十五

おれをうら院をこの種れとやも下へうり小あるせうれと

夜笠岳淨靈

六所明神と称れ松本村等持院門前土井村に
九月廿一日等持院真如寺みかひ社と鎮ち

拾王

神ある夜笠岳の岩の松くくたてれとたのめとをれ
このまのうくれと云ふせうはと神も向うかともせん

慈徳

隆厚

龍安寺

方丈
林泉

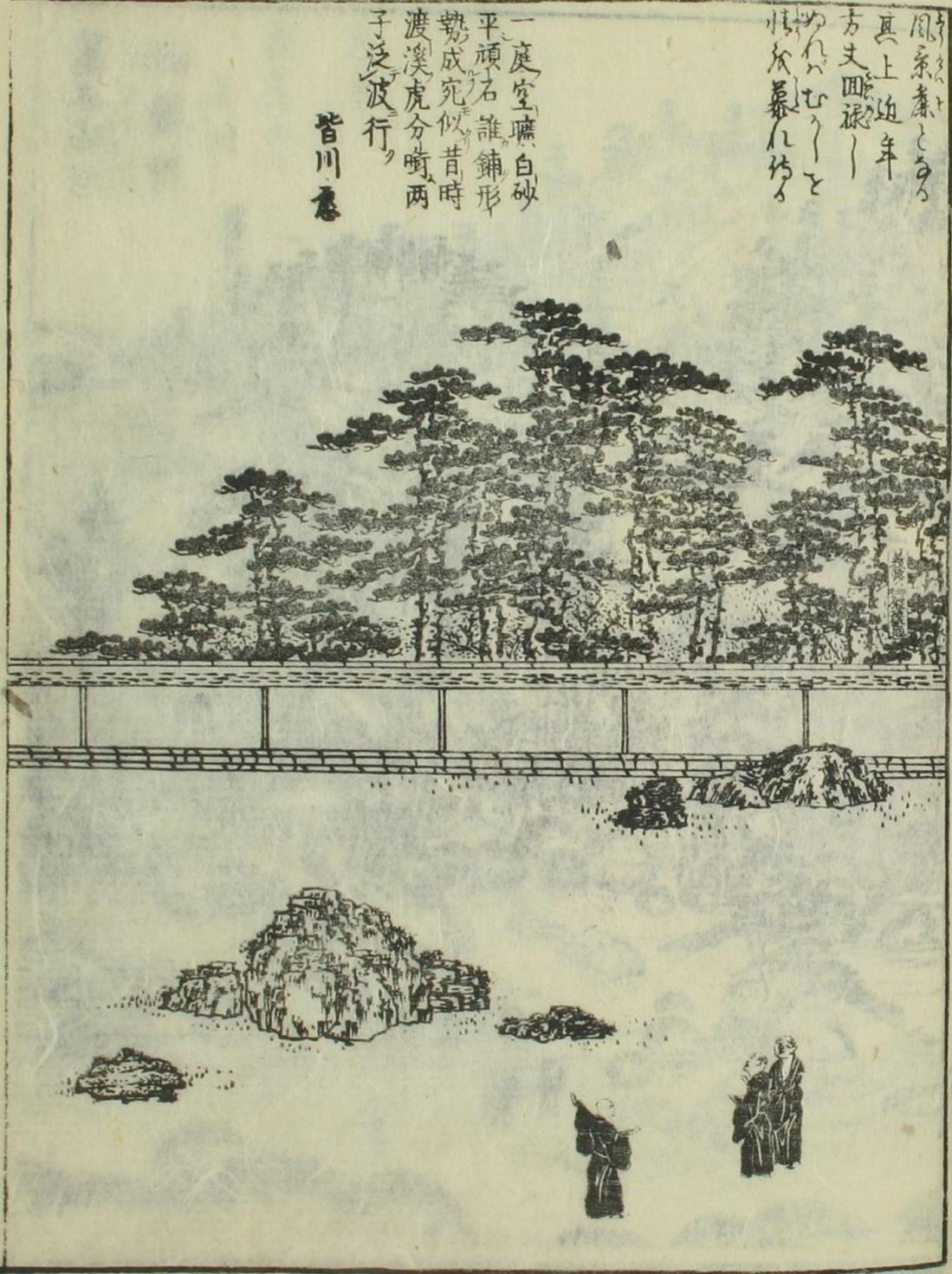
此は龍安寺の
方丈の景也
昔は龍安寺
の僧侶が
此の地を
開闢した
と云ふ事
ありけり
其の地は
平らなる
に松石を
置きて
此の景を
成したる
と云ふ事
ありけり
其の地は
平らなる
に松石を
置きて
此の景を
成したる
と云ふ事
ありけり



真上延年
方丈回廊
此の地は
平らなる
に松石を
置きて
此の景を
成したる
と云ふ事
ありけり

一庭空曠白砂
平頑石誰鋪形
勢成宛似昔時
渡溪虎分噴兩
子泛波行

皆川春





月夜
夜笠山の
名此
難考

中

本
四
十
八



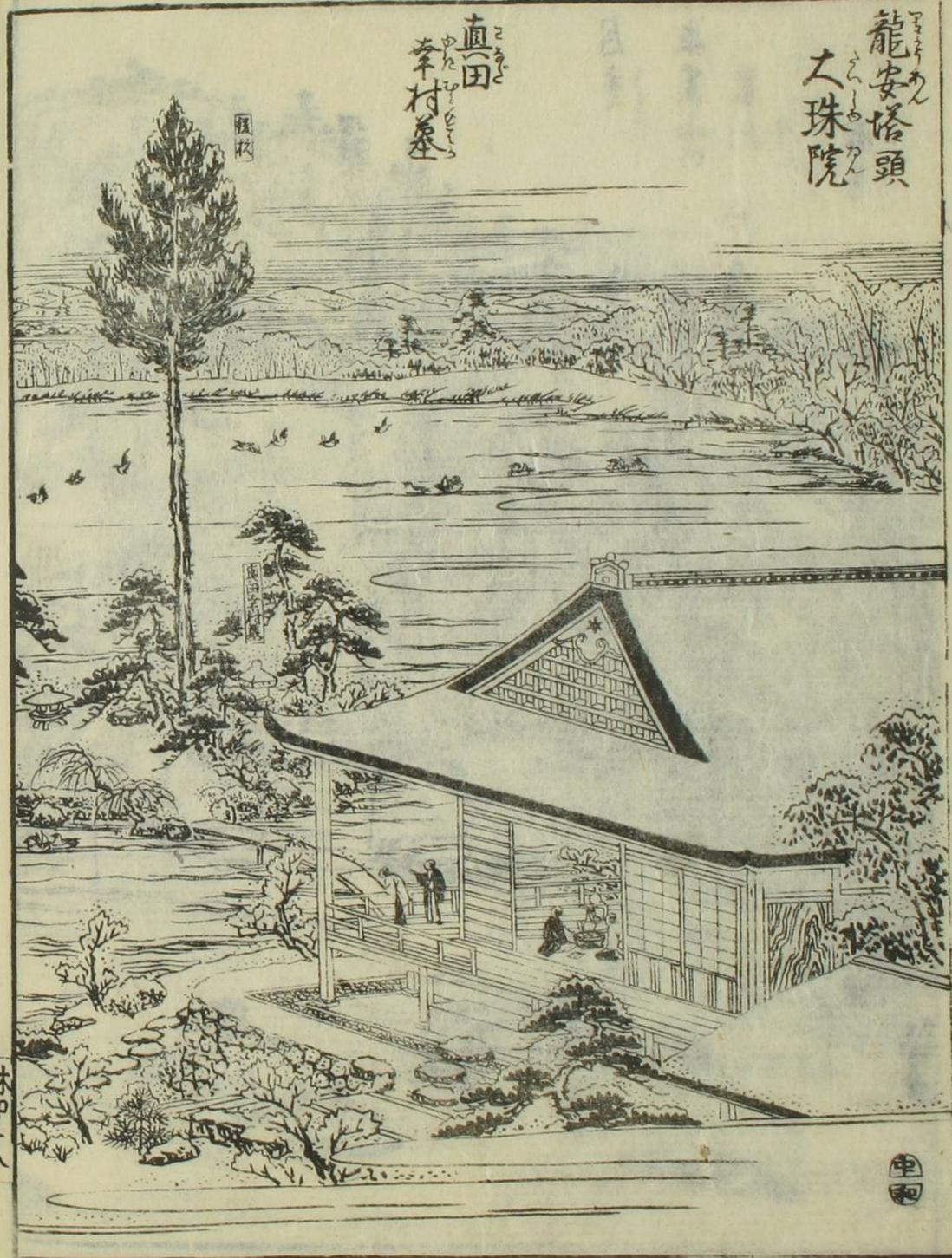
龍安塔頭
西源院

國山

龍安塔頭
大珠院

真田
幸村墓

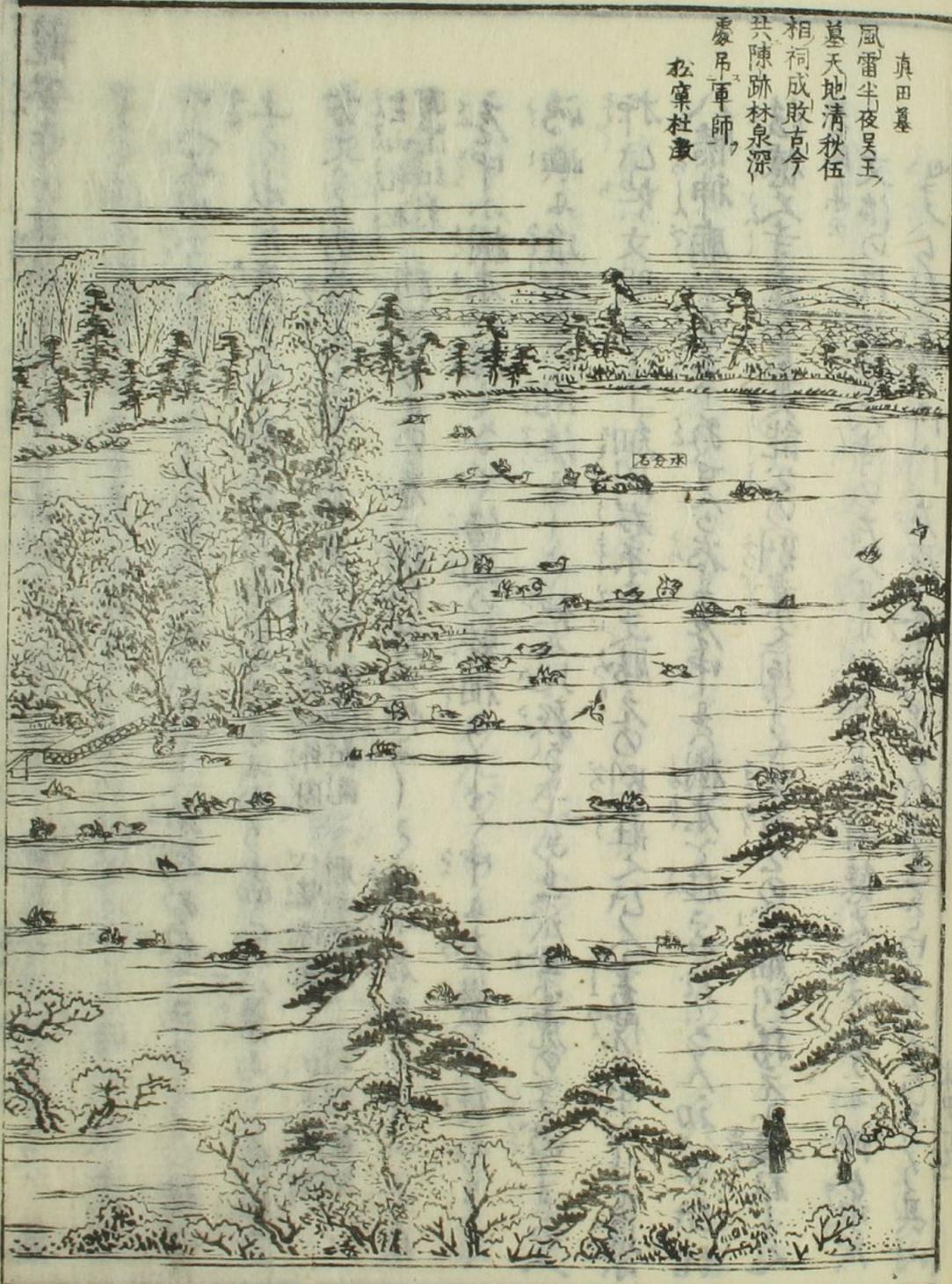
楓林



中

林四十八

真田墓
風雷半夜吳王
墓天地清秋伍
相祠成敗古今
共陳跡林泉深
處吊軍師
松窠杜叢



龍安寺の林泉と封境も名池あり鏡容池と弊に冬日鬱鬱多く敷
 しく涪水の眺を世も名高し池中且この清あり中の清は伏虎中
 しく又水が石といひあり森ある時石上へ水蹴ぬれを西の方乃樋成
 上り水が流るるに笑橋といひ東の方且あり處に八景あり是みか
 方丈とりの遠系とひく風趣とに 東山仲園 伏見城址
龍安寺 龍安寺 所謂方丈の庭に相阿弥の作ありく涪水名庭の才一と及
 庭中小樹木一株もかく海面の幹相ありく中且赤巖十種ありく
 鳴嶼且准一真の風流ありく他も比較ありくまは世小虎の子波ありく
 柝い地文明年中細川右系と支勝えの別荘といひ人書院且堅ありて選集
 八幡神廟と每事ありく庭中且樹木と柱をほくさん初より地
 後徳大寺たる官實能公の別業と同く公有公の代細川勝元も護れり
 著園集云
 文治のに後徳大寺のた大長且ありく時徳大寺の亭也他泉泉
 あり入られく中門た府に案内ありくされきとていりありあり其時

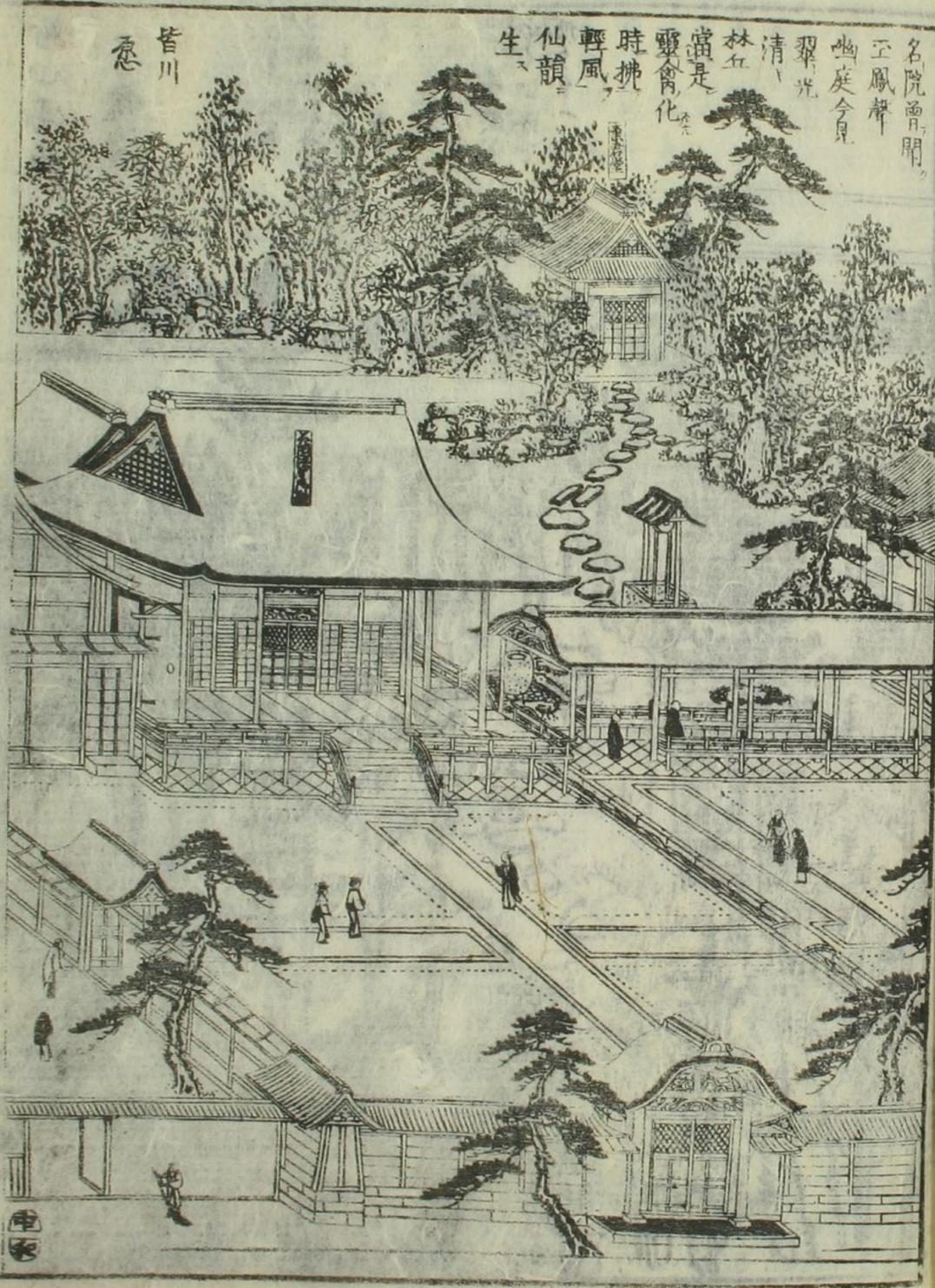
二条のた府入道は右大臣中山相國入道に別當ありくおそくありあり
 扈從ありあり亭も興を用意ありくひと持夜きり侍六人あり
 ありた府の車れを中へむくありありせられりありありありあり
 申されきとてありありありありありありありありありありあり
 且次に北院の清室威法古法下を寺中にさすありありありあり
 ありあり送服の事也とありありありありありありありありありあり
 ありありありありありありありありありありありありありありあり
 ありありありありありありありありありありありありありありあり
 塔頭西源院と今假方丈なり 通車方丈 龍安寺 釋迦迦葉阿難の三尊と安
 ありありありありありありありありありありありありありありあり
 竹林虎西間琴瑟書画杉戸 長象 裏 龜 俱 小 持 聖 永 德 の 寺 之 院 の
 林泉又風流ありあり上段の地且茶室あり額藏六と書に正法山
 桂南の寺ありありありありありありありありありありありありありあり

妙心寺
玉鳳院
花園法皇
所殿



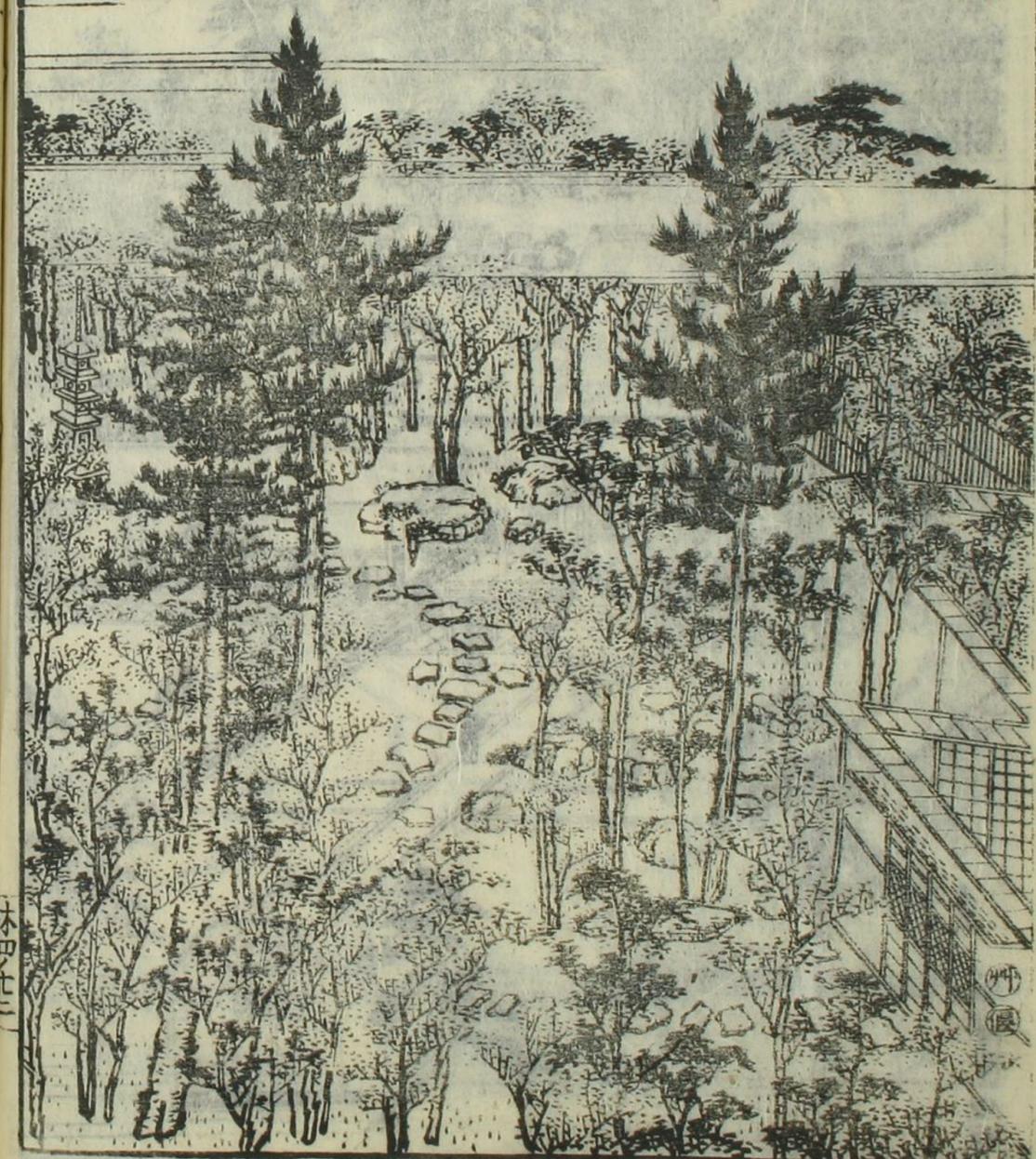
名院曾開
正鳳聲
幽庭今負
翠光
清
林在
當是
靈禽化
時拂
輕風
仙韻
生

皆川
急



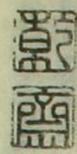
妙心塔頭
大通院

妙心院の塔頭
寺樹あり
一の塔中
寺一の名を
分り代れ
松樹あり高
四方海峯大
おとけを
ゆるり



大和七二

湘公豈忘故
丘情遊賦往
年一小瀛樹
石千般後甲
浦山川
萬里輸
京城白沙
無水分洲色
瓶岬多松弄
海聲鮮道
飛峯不胡
説園中幽趣
擅佳名
三浦世績

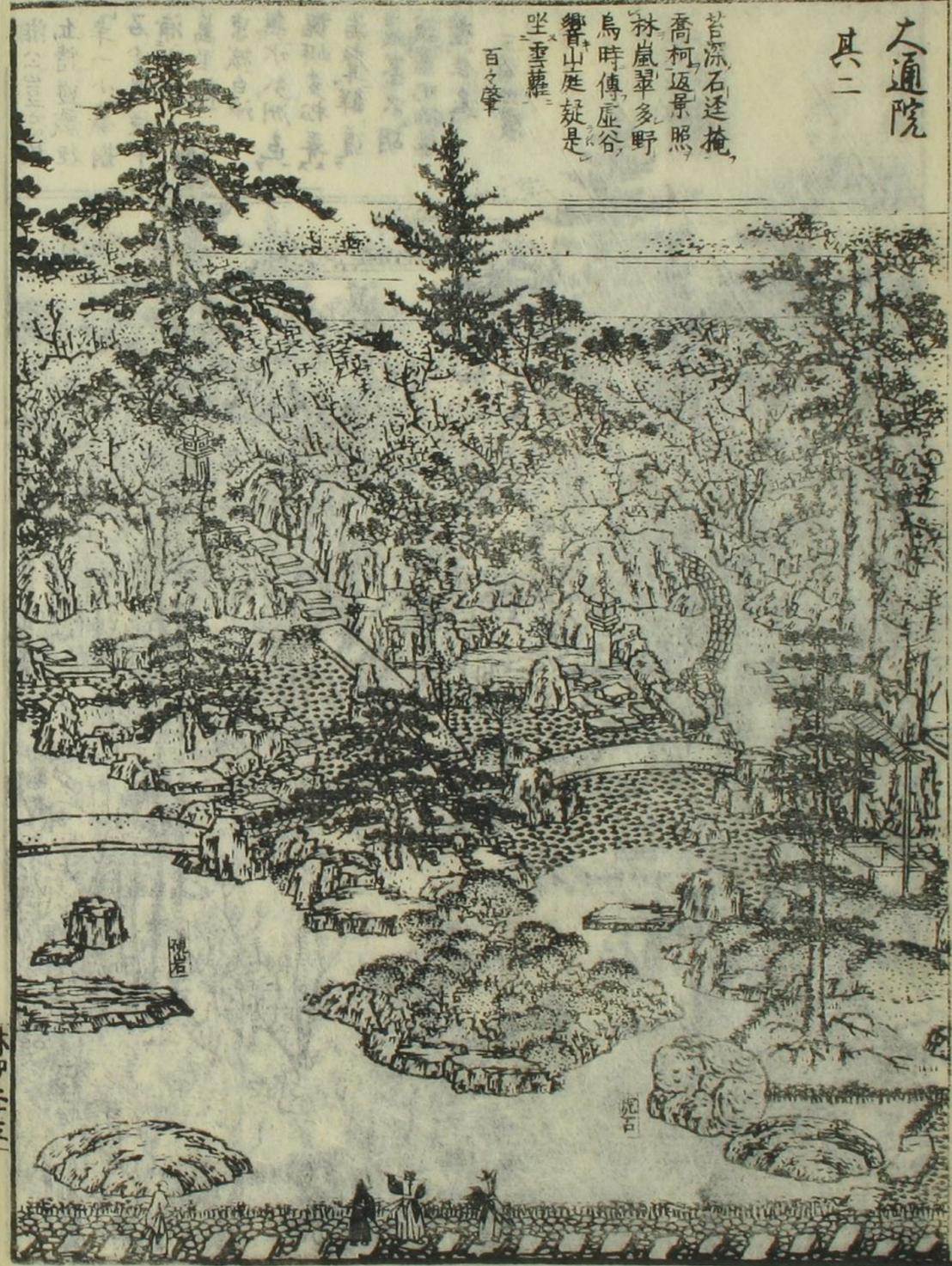


大通院

其二

苔深石迹掩
喬柯返景照
林嵐翠多野
鳥時傳虛谷
響山庭疑是
坐垂蘿

百之肇



林阿三

早稲田大学図書館

011688994790